

営業状況等統計調査

(平成25年度財務諸表等より)

— 平成26年度 —

< 解 説 編 >



日本
旅館
協会

一般社団法人 日本旅館協会
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

平成 26 年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

営業状況等統計調査票	2
会員数と回答旅館ホテルの内訳	6
はじめに	7
調査の概要	7
 I.基本調査	7
1. 調査旅館ホテルの概要	9
2. 貸借対照表	10
3. 売上高構成比	11
4. 宿泊客 1 人当り売上高	12
5. 定員稼働率・客室稼働率	14
6. 売上効率	15
7. 原価効率	16
8. 経費率	17
9. 主要経費構成比	18
10. 客 1 人当り経費	19
11. 利益率	20
12. 就業者	21
13. 従業員効率	22
14. 建物面積効率	23
15. 資本効率・資金回収年数	24
 II.全件調査	25
1. 集客の方法	25
2. ホームページ	26
3. 外国人宿泊客	27
4. インターネット対応	28
5. クレジットカード	29
 むすび	29

平成26年度 営業状況等統計調査票

①

直近の事業年度の決算等にもとづいて記入し、
平成26年12月5日までにご提出ください。

1

A. 業態と地域（必須）

業態		1. 宿泊料金には夕食・朝食を含む 旅館営業	2. ルームチャージのみで販売する ホテル営業	摘要	1. 旅館業と2. ホテル業の双方に該当する場合は、1. をお選びください。
----	--	---------------------------	----------------------------	----	--

地域	③	以下より該当する地域を1から9の番号をお選び下さい。
----	---	----------------------------

- 1 北海道 …………… 北海道
2 東北 …………… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
3 関東 …………… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
4 北陸信越 …………… 新潟県、富山県、石川県、長野県
5 中部 …………… 福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
6 関西 …………… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
7 中国 …………… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
8 四国 …………… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
9 九州 …………… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

B. 客室数と面積（必須）

	和室の数		和洋室の数		洋室の数		合 計	
客室数	4	室	5	室	6	室	7	室

建物延べ面積	8	m ²
--------	---	----------------

C. 宿泊人員、営業日数等

収容定員	9	人
年間営業日数	10	日
年間販売可能客室数	11	室
年間延べ宿泊人員	12	人
旅行業者経由の宿泊人員	13	%
ネット業者経由の宿泊人員	14	%
自社HPからの宿泊人員	15	%
宿泊人員のうち外国人	16	%
年間延べ日帰り食事利用人員	17	人
年間延べ利用客室数(宿泊のみ)	18	室

外国人の国籍

韓 国	19	人
台 湾	20	人
中 国	21	人
香 港	22	人
タ イ	23	人
米 国	24	人
英 国	25	人
その他	26	人

D. 標準宿泊料金

1. 閑散期に設定している宿泊料金	27	円	～	28	円
2. 繁忙期に設定している宿泊料金	29	円	～	30	円

裏面に続く

E-1. 損益計算書(消費税除く)

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

科目		金額		摘要
総売上高		31	千円	決算書上の売上高を記入してください。ただし、付帯事業があつて、売上高から経費、営業利益まで旅館ホテル業と分離可能な場合は分離して下記枠外に売上高等をご記入ください。分離できない場合は、合算額でご記入下さい。
内 訳	宿泊客収入	32	千円	宿泊料売上げをご記入ください。ただし、諸税は含めないでください。
	追加料理等	33	千円	1泊2食に含まれない追加料理、特別料理の売上
	飲料・冷蔵庫	34	千円	酒類、ソフトドリンク、客室冷蔵庫売上
	日帰り	35	千円	レストラン、日帰り宴会等料理売上(会場費、施設使用料含む)
	飲料売上	36	千円	日帰り飲料売上
	売店売上	37	千円	土産品、タバコなどの売店売上
	その他売上	38	千円	娯楽施設などの売上、花代、出前、クリーニング等の収入
	雑収入	39	千円	上記以外の収入。なお、サービス料(奉仕料)は該当する売上に含めてください
	付帯事業売上	40	千円	旅館事業以外の売上 主な事業内容:
売上原価		41	千円	決算書の売上原価を記入してください
内 訳	期首棚卸し残高	42	千円	期首棚卸し残高の総額を記載ください
	料理材料費	43	千円	料理材料仕入
	飲料仕入	44	千円	酒類、清涼飲料水などの仕入
	売店仕入	45	千円	売店商品仕入
	その他仕入	46	千円	その他売上、付帯事業売上にに関する仕入
	期末棚卸し残高	47	千円	期末棚卸し残高の総額を記載ください
売上総利益		48	千円	決算書の売上総利益を記入してください
人件費、販売費及び一般管理費		49	千円	人件費、販売関連費用、業務経費、エネルギー経費、建物およびその他管理経費、減価償却費等諸経費合計
営業利益		50	千円	決算書の営業利益を記入してください(損失の場合△印)
営業外収益		51	千円	受取利息、受取配当金、その他営業外収入
営業外費用		52	千円	支払利息、割引料その他営業外費用
(うち支払利息)		53	千円	前項のうち支払い利息のみ
経常利益		54	千円	決算書の経常利益を記入してください(損失の場合△印)

E-2. 人件費、販売費及び一般管理費の内訳 (E-1.損益計算書の事業年度のものでご記入願います)

給与・賞与 (役員報酬を含む)	55	千円	役員、社員、パートタイマー、アルバイトの給与と賞与の合計
法定福利費	56	千円	社会保険料、雇用保険料等の会社負担分
その他人件費	57	千円	制服代、賄費、その他福利厚生費、退職金
外注費	58	千円	清掃・夜警等の外部委託費、配膳会等人材派遣会社への支払い
送客手数料	59	千円	旅行業、ネット業者及び総合案内所に支払う送客手数料
カード手数料	60	千円	カード会社への支払手数料
広告宣伝費	61	千円	広告費、広告制作費に関わる費用
接待交際費	62	千円	得意先への接待、贈答品、冠婚葬祭費
旅費交通費	63	千円	出張旅費、一般交通費など
消耗品費	64	千円	箸、固形燃料、お膳紙、歯ブラシ、タオル、石鹸、トイレトペーパーなど
備品費	65	千円	減価償却の対象とならない備品の購入費用
洗濯リネン費	66	千円	シーツ、抱布、枕カバー、バスタオル、浴衣、丹前等の洗濯代、リネン費用
水道光熱費 (燃料費を含む)	67	千円	上下水道、電気、ガス、重油、灯油、温泉などの費用
修繕費	68	千円	固定資産、什器備品、送迎営業車輛等の修繕に要した費用
賃借料	69	千円	支払地代、支払家賃、事務機(コンピューター、FAX、コピー機等)のリース料等
通信費	70	千円	電話料金、切手代、宅配便など
減価償却費	71	千円	決算上の減価償却費をご記入ください。
その他	72	千円	上記に含まれないもの、端数調整など
合 計	73	千円	

F. 貸借対照表

平成 年 月 日現在

※直近の決算書よりご記入下さい

借方				貸方			
科目		金額		科目		金額	
流動資産	74		千円	負債の部	流動負債	78	千円
固定資産	75		千円		(うち短期借入金)	79	千円
繰延資産	76		千円		固定負債	80	千円
					(うち長期借入金)	81	千円
				純資産の部 (資本金・剰余金)		82	千円
資産の部合計	77		千円	負債・資本の合計	83		千円

G. 就業者

区分	項目	就業者数	
	常勤役員	84	人
	正社員	85	人
	パートタイマー	86	人

注1. 就業者数(正社員・常勤パートタイマー)は、各月末の就業者数の合計(12ヶ月分)を12で除した平均値をご記入下さい。

H.. 従業員(正社員)の平均年齢は何歳ですか

男性	87	歳	女性	88	歳
----	----	---	----	----	---

裏面に続く

1. 次の設問についてもよろしくご協力願います。（該当する番号に「○」をつけてください）

4

（該当する番号を右側の口（四角枠）に入力してください）

Q1. サービス料について

1. サービス料（奉仕料）を設定している	2. 設定していない	89
（※予約段階でサ込み表示されていても、館内販売含め何らかの設定がある場合、設定しているにお答え下さい）		

Q2. インターネット対応の状況について

① HP（ホームページ）の開設状況はいかがですか。	90					
1. 自社専用HPがある（次の2. は含まない）	2. エージェント等のサイト内に自社HPがある					
3. 旅館組合等やエージェントのHPに掲載されている	4. 自社HPは開設していない					
② HPの対応言語をお答えください。（複数回答）	91					
1. 英語	2. 中国語（繁体字/台湾・香港向け）	3. 中国語（簡体字/大陸向け）	4. 韓国語	5. タイ語	6. 仏語	7. 独語
8. 日本語のみ	9. その他（					
③ 外国語HPを作成されていない旅館のみお答えください。外国語のHPを作成する必要があると思いますか。	92					
1. はい	2. いいえ					
④ HPから即時予約することが可能ですか。	93					
1. はい	2. いいえ					
⑤ 即時予約可能な外国語HPがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	94					
1. 英語	2. 中国語（繁体字/台湾・香港向け）	3. 中国語（簡体字/大陸向け）	4. 韓国語	5. タイ語	6. 仏語	7. 独語
8. 日本語のみ	9. その他（					
⑥ サイトコントローラー（手間いらず、ねっぱん、TLリンカーン等）を導入していますか。	95					
1. はい	2. いいえ					
⑦ 無料公衆無線LAN（フリーWifi）を設置していますか。	96					
1. はい	2. いいえ					
⑧（上記で「はい」の方のみ）無料公衆無線LAN（フリーWifi）の設置場所はどちらですか。（複数回答）	97					
1. 全館	2. ロビー	3. 客室	4. 会議室	5. 宴会場	6. その他（	

Q3. 外国人客の受け入れについて、近いと思われるものをお答え下さい

1. 料金に関わりなく受け入れたい	2. 高単価の外国人客のみ受け入れたい	3. 日本人観光客を優先する	98
4. 外国人客は受け入れたくない			

Q4. 入浴施設

A. 露天風呂の有無（複数回答）	99		
1. 一般的な露天風呂	2. 客室露天風呂	3. 貸し切り露天風呂	4. 無
B. 温泉の有無	100		
1. 有	2. 無		

Q5. クレジットカード対応の状況について

① クレジットカードによる決済は可能ですか	101				
1. 可	2. 不可				
② 【①の設問で1と答えた場合】利用できるカードの種類をお答えください（複数回答可）	102				
1. VISA	2. Master Card	3. JCB	4. 三菱UFJニコス（MUFG, DC, UFJ, ニコス）	5. UC	6. イオン
7. Diners	8. AMEX	9. その他（			
③ 決済処理にカード決済端末を導入していますか	103				
1. 導入している	2. 導入していない				
④ 【③の設問で1と答えた場合】どのカード決済端末を使っていますか	104				
1. C-REX	2. INFOX	3. JET-S	4. その他（		
⑤ 総売上高に占めるクレジットカード決済の割合はどれくらいですか					
	回答	105		%	

ご協力ありがとうございました。

一般社団法人 日本旅館協会 (平成26年度4月1日現在)

地域(支部連合会)	会 員 数	区 分
北 海 道	225	北海道
東 北	340	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	560	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	553	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	406	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	387	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	171	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	144	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	295	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	3,081	



●旅館営業とは、宿泊料金に夕食・朝食を含むところとした。

大旅館……客室数 100室以上

中旅館……客室数 31室以上99室未満

小旅館……客室数 30室以下

●ホテル営業とは、ルームチャージのみで販売するところとした。

<平成26年度 営業状況等統計調査回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数	大 旅 館			総回答数
		大 旅 館	中 旅 館	小 旅 館	
旅 館	251	50	122	79	299
北 海 道	23	10	7	6	26
東 北	32	7	14	11	40
関 東	29	1	17	11	36
北陸信越	30	4	15	11	38
中 部	34	9	17	8	40
関 西	39	7	18	14	43
中 国	19	4	8	7	24
四 国	19	5	9	5	23
九 州	26	3	17	6	29
黒字旅館	167	36	85	46	—
赤字旅館	84	14	37	33	—
ホ テ ル	21	4	12	5	28

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全軒調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

〈はじめに〉

本年は272軒の会員から回答が寄せられた。会員には、ルームチャージで営業するホテル業もあることから、前年に引き続いて、集計では旅館とホテルを区分している。

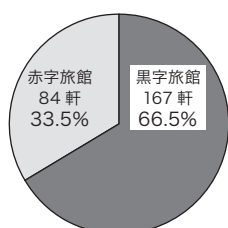
平成25年度は、

- ・2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定
- ・富士山が世界文化遺産に決定
- ・新石垣空港開港
- ・JR周遊きっぷ・オレンジカード廃止
- ・参院選で自民、公明両党が過半数獲得、ねじれ解消
- ・楽天イーグルスが初の日本一
- ・長嶋茂雄氏と松井秀喜氏に国民栄誉賞
- ・伊豆大島で土石流災害、死者35人
- ・消費税率8%への引き上げ決定
- ・安倍首相、TPP交渉参加を表明
- ・ホテルなどで食材偽装の発覚相次ぐ
- ・伊勢神宮の第62回式年遷宮と出雲大社の本殿遷座祭が重なった年であった

〈調査の概要〉 〈表1、表2、図1〉

この調査は、損益計算書、客室数、利用人員等が有効な回答についておこなう「Ⅰ. 基本調査」と、それらの項目には無回答だが、アンケートには回答してくれているものを含めた「Ⅱ. 全件調査」にわかれる。調査票発送部数は2,989軒、回答は旅館299軒、ホテル28軒となっている。うち有効回答は旅館251軒、ホテル21軒となっている。2,989軒に対する有効回答率は9.1%となっている。

図1 黒字・赤字旅館の割合 (単位：%)



旅館については規模別の集計をおこなっており、客室が100室以上を「大旅館」、31室以上99室以下を「中旅館」、30室以下を「小旅館」としている。

さらに、経常利益を基準に「黒字旅館」「赤字旅館」としている。ホテルについては回答軒数が限られることから内訳分析をおこなっていない。

今年度は黒字旅館167軒(66.5%)、赤字旅館84軒(33.5%)となっている。規模別の回答状況は以下の通りである。

- ・大旅館 50軒
うち黒字旅館 36軒 赤字旅館 14軒
- ・中旅館 122軒
うち黒字旅館 85軒 赤字旅館 37軒
- ・小旅館 79軒
うち黒字旅館 46軒 赤字旅館 33軒

黒字旅館の割合を平成20年から並べてみた。民主党政権時代には黒字旅館の割合が50%を切っていたが安倍政権となって2年連続の回復となっている。特に小旅館の回復が著しい。

表1 有効回答旅館の推移 (単位：軒)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
回 答 軒 数	平成20年	51	83	19	153	—
	21年	65	106	42	213	—
	22年	62	112	45	219	—
	23年	55	106	33	194	—
	24年	48	106	82	236	22
	25年	50	122	79	251	21

表2 黒字旅館の推移 (割合) (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成20年	51.0	49.4	52.6	50.3	—
21年	52.3	50.9	52.4	51.6	—
22年	48.4	42.9	35.6	42.9	—
23年	45.5	47.2	27.3	43.3	—
24年	79.2	56.6	51.2	59.3	68.2
25年	72.0	69.7	58.2	66.5	81.0

●今年度の主な変更点

- ・これまで回答数が伸び悩んでいたことから、調査票の設計を見直し回答しやすくした。例えば、建物の詳細な面積を設問せず延べ床面積のみとしている。
- ・設問の削除箇所は、客室内訳、建物面積内訳等、固定資産内訳、純資産内訳、労働時間数、正社員休日数、役員社員パート別給与・賞与、基準賃金、客室係関連項目。
- ・設問方法の変更は、旅行業等経由人員、外国人国籍、HP 言語等。
- ・新規の設問は、所在地域、サイトコントローラー、無料公衆無線 LAN（フリー Wi-fi）としている。
- ・調査票の変更に伴い資料編の構成や解説編の参照資料を一部見直しているが、業界の営業状況ならびに経営状況を把握するという従来からの趣旨には沿っていると考えている。

●解説編の表記方法について

- ・この調査は平成25年度の決算書を対象に平成26年度に実施していることから各表の最新年度を「25 年」と表記している。
- ・前年との比較：例えば「大旅館 20,000 円（▲500 円、▲2.4%）」と表記した場合、20,000 円は今年度の集計結果であり、（ ）内は前年度との比較を示す。
- ・数値が前年を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付す。
- ・%同士の引き算（例えば、14.4%－14.7%）の結果を%で表記すると100分率と混同があるので、単位をポイントとし「p」と表記する。
- ・通常決算書で「販売費及び一般管理経費」と言われる経費を以下の区分とする。
- ・例えば原価率を算出する時は、

$$\text{原価率（旅館）} = \text{原価（旅館）} \div \text{売上（旅館）}$$

$$\text{原価率（黒字）} = \text{原価（黒字）} \div \text{売上（黒字）}$$

$$\text{原価率（赤字）} = \text{原価（赤字）} \div \text{売上（赤字）}$$
と、項目ごとにサンプルを抽出して計算している。

- ・解説は旅館を中心におこない、ホテルについては行頭に（ホテル）と明記する。

●資料編について

- 資料編の編集にあたっては回答された数値を統計的に処理している。留意点は次のとおりである。
- ・自主回答であるため一部に無回答がある。そこで項目ごとに集計対象を見直す処理（DK 処理）をおこなっている。
- ・ただし、売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分分解している。
- ・回答があっても異常値といえる過大あるいは過小の数値については、不明とみなして DK 処理の対象としている。
- ・なお、就業者数については労働生産性を基準にサンプルの上位5%と下位5%を DK とした。
- ・また回答が2軒以下の場合は、算出された数値はブランクとした。例えば、関東の大旅館は回答軒数が少ないために表示しないが、関東全体の平均にはその回答を含めている

表3 経費区分

人件費	給与・賞与、法定福利費、其他人件費、外注費
営業経費	送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費、客用消耗品費、洗濯リネン費
管理経費	水道光熱費、修繕費、備品費、貸借料、通信費、その他
減価償却費	減価償却費

I. 基本調査

基本調査では旅館ホテルの経営状況を分析している。

1. 調査旅館ホテルの概要

(1) 有効回答軒数 〈表1〉

大旅館は100室以上の旅館であるが、回答軒数が50軒となっている。この6年間でみると大旅館の回答軒数は減少している。一方、中旅館(31室～99室)の回答軒数は122軒と前年比の1.15倍となっている。このことは平均に少なからず影響を与えていると思われる。

小旅館の回答軒数は前年に増加したが、本年は減少した。

(ホテル) 回答軒数は21軒となっている。

(2) 総客室数・収容定員 〈表4〉

今年度の1軒当りは客室数71室、収容定員310人となっている。規模別では、

- ・大旅館 186室、775人
- ・中旅館 59室、273人
- ・小旅館 18室、74人

1室当り定員は平均で4.2人となっている。

大旅館の1軒当り客室総数は増加している。中旅館は横ばい、小旅館は1軒ずつだが減少している。(ホテル)平均で65部屋122名となっており、1室当り定員は1.9人となっている。1軒当り客室数は前年を6室下回った。

(3) 総売上高・宿泊人員 〈表5〉

今年度の総売上高は、

- ・大旅館 20億6,962万円
(+1億8,387万円、+9.8%)
- ・中旅館 6億5,962万円
(+1,107万円、+1.7%)
- ・小旅館 1億9,573万円
(+2,377万円、+13.8%)

となっている。中旅館は1.7%とほぼ前年並みであるが、大旅館9.8%、小旅館13.8%の増加となっている。(ホテル)総売上高は2億3,922万円と前年の57.9%となっており、サンプルの入れ替わりがあると思われる。

年間宿泊人員は、

- ・大旅館 10万4,305人 (+9,202人、+9.7%)
- ・中旅館 3万4,373人 (+423人、+1.2%)
- ・小旅館 7,937人 (▲244人、▲3.0%)

となっている。前年との比較では大旅館が伸びており、小旅館は下がっている。以下にみるように小旅館の売上げアップは単価上昇による。

表4 1軒当り総客室数・収容定員・1室当り定員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総客室数(室)	平成20年	157	58	22	87	—
	21年	154	59	21	81	—
	22年	148	60	21	77	—
	23年	168	60	21	84	—
	24年	168	60	19	68	71
	25年	186	59	18	71	65
収容定員(人)	平成20年	677	267	96	383	—
	21年	681	270	86	359	—
	22年	700	274	91	357	—
	23年	735	279	92	376	—
	24年	723	284	83	303	118
	25年	775	273	74	310	122
1室当り定員(人)	平成20年	4.3	4.6	4.4	4.4	—
	21年	4.4	4.6	4.1	4.5	—
	22年	4.7	4.6	4.4	4.6	—
	23年	4.4	4.6	4.4	4.5	—
	24年	4.3	4.7	4.3	4.5	1.6
	25年	4.2	4.6	4.2	4.3	1.9

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総売上高(万円)	平成20年	218,956	72,003	30,954	115,890	－
	21年	177,327	71,237	23,671	94,223	－
	22年	179,280	71,209	22,108	91,715	－
	23年	161,591	70,105	19,536	87,440	－
	24年	188,575	64,855	17,196	73,459	41,287
	25年	206,962	65,962	19,573	79,449	23,922
年間宿泊人員(人)	平成20年	101,922	35,128	12,581	54,593	－
	21年	91,693	33,986	10,502	46,996	－
	22年	92,653	33,970	9,435	45,542	－
	23年	91,105	35,809	8,492	46,839	－
	24年	95,103	33,950	8,181	37,434	19,792
	25年	104,305	34,373	7,937	39,983	21,734

2. 貸借対照表〈表6、表7、表8〉

(1) 資産の状況

①流動資産

今年度の1軒当り総資産は14億9,841万円(+6,023万円、4.1%)となっている。大旅館の総資産が増加したことで全体の平均値が押し上げられた。そのうち流動資産は21.4%で大旅館が比較的高い。(ホテル)総資産は3億6,289万円となっている。うち流動資産は19.2%と旅館と比較すると低い。

②固定資産

固定資産は総資産の78.0%を占めるが、前年よりも3.8pの減少となっている。(ホテル)80.7%と固定資産は旅館より多い。

(2) 負債・資本の状況

①流動負債

流動負債は1年以内に返済する借入金のほか仕入れの買掛金、税金等の一時的な預り金であり、総資産の17.1%を占める。流動資産21.4%が流動負債17.1%を4.3p上回っている。このように流動資産が流動負債を上回る方が望ましい。

(ホテル)流動資産19.2%に対して流動負債24.1%と流動負債が多く、旅館よりも資金繰りが厳しい。

②長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計は、負債・資本合計の63.6%で前年の▲11.5pとなっている。大旅館が前年の79.9%から61.7%に低下した。小旅館は65.4%から76.2%に上昇している。大旅館と小旅館の逆転現象が起こっている。

(ホテル)長短借入金は前年より上昇し75.2%となっている。

③自己資本比率

自己資本は資本金と剰余金からなる。その構成比は24.9%となっている。小旅館は10.6%と低い。

表6 1軒当り資産

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資産額 (万円)	平成21年	316,472	129,692	48,101	174,352	－
	22年	347,864	121,590	57,455	172,515	－
	23年	307,118	119,697	35,141	160,116	－
	24年	350,180	128,010	37,830	143,818	120,998
	25年	408,126	125,049	29,483	149,841	36,289
長短借入金合計 (万円)	平成21年	249,749	110,065	36,811	141,309	－
	22年	272,455	106,421	38,520	139,480	－
	23年	265,531	95,835	23,678	133,153	－
	24年	279,780	91,199	24,754	108,031	80,492
	25年	252,004	80,257	22,463	95,357	27,302

表7 貸借対照表

(単位：%)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
固定資産	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
繰延資産	0.5	0.7	0.3	0.5	0.2
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	19.3	14.9	13.4	17.1	24.1
(うち短期借入金)	11.1	5.7	6.1	8.5	6.2
固定負債	53.9	60.5	76.0	58.0	72.0
(うち長期借入金)	50.6	58.5	70.1	55.1	69.0
(長短借入金合計)	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
自己資本	26.8	24.6	10.6	24.9	3.9
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	平成20年	16.8	9.9	17.1	14.7	－
	21年	15.3	12.7	17.1	14.4	－
	22年	20.2	12.1	20.6	17.3	－
	23年	18.9	15.4	19.3	17.4	－
	24年	18.5	16.4	20.3	17.8	10.5
	25年	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
固定資産	平成20年	83.0	88.1	82.4	84.6	－
	21年	84.6	86.9	82.9	85.3	－
	22年	79.7	87.4	78.5	82.4	－
	23年	80.8	82.1	79.5	81.3	－
	24年	81.4	83.4	77.1	81.8	89.5
	25年	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
長短借入金合計	平成20年	71.9	91.2	70.6	77.8	－
	21年	78.9	84.9	76.5	81.0	－
	22年	78.3	87.6	67.0	80.8	－
	23年	86.5	80.1	67.4	83.2	－
	24年	79.9	71.3	65.4	75.1	66.5
	25年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2

3. 売上高構成 〈図2〉〈表9〉

売上高の内訳である「宿泊料収入」「追加料理」「飲料売上」「売店売上」等の記述がない回答や不完全な回答については、平均値をもって補足している。図2に今年度の総売上高に占める売上項目の構成比を円グラフで示した。

宿泊料売上は全体の68.1%を占め、次いで日帰り料飲9.3%、その他・雑収入6.7%、宿泊料飲5.9%、売店5.7%となっている。

(ホテル)宿泊料売上げは47.2%となっている。また、日帰り料飲は32.5%と売上げの3割以上を占める。

付帯事業8.8%、その他・雑収入で3.5%となっている。レストラン、宴会場などを充実し多角化を進めている姿が浮かび上がっている。

(1) 宿泊料売上

総売上高における宿泊料は平均68.1%で前年度よりも1.6p増加した。

黒字・赤字別では、

- ・大旅館 黒字 66.9% 赤字 68.1%
- ・中旅館 黒字 67.9% 赤字 70.6%
- ・小旅館 黒字 73.8% 赤字 67.4%

大旅館と中旅館では比率が高い方が赤字となっている。小旅館では比率が高い方が黒字となっている。

(2) 宿泊客料飲売上

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫を合計した料飲売上は平均で総売上高の5.9%(+0.3p)となっている。黒字旅館の料飲比率が低い。

- ・大旅館 黒字 5.5% 赤字 5.9%
- ・中旅館 黒字 6.5% 赤字 7.1%
- ・小旅館 黒字 4.8% 赤字 5.8%

(3) 日帰り客料飲売上 〈表7〉

日帰り客料飲売上が総売上高に占める割合は平均で9.3%、小旅館が11.5%と高い。小旅館には日帰り営業を中心に行っているところがある。

(4) 売店売上

売店売上は総売上高の5.7%(▲0.5p)。規模が大きいほど売店売上の比率は高い。赤字の大旅館がもっとも比率が高い。

- ・大旅館 黒字 6.4% 赤字 8.2%
- ・中旅館 黒字 5.0% 赤字 4.1%
- ・小旅館 黒字 3.3% 赤字 3.8%

図2 売上構成比 (単位：%)

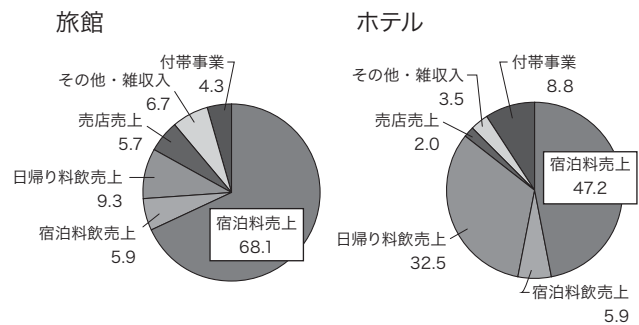


表9 売上高構成

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿泊料売上	平成20年	62.7	64.0	64.3	63.2	—
	21年	67.9	66.3	64.7	67.1	—
	22年	69.1	66.9	66.6	68.1	—
	23年	68.5	67.5	64.2	67.9	—
	24年	65.5	68.5	63.3	66.5	28.4
	25年	67.1	68.6	72.1	68.1	47.2
宿泊客料飲売上	平成20年	9.9	7.6	3.0	8.9	—
	21年	6.8	6.4	7.2	6.7	—
	22年	5.9	5.9	5.4	5.9	—
	23年	6.3	5.7	5.1	6.0	—
	24年	6.0	5.4	4.5	5.6	1.3
	25年	5.5	6.7	5.0	5.9	5.9
日帰り客料飲売上	平成20年	7.3	9.1	17.5	8.3	—
	21年	7.0	11.4	14.6	9.0	—
	22年	6.5	11.1	15.9	8.8	—
	23年	7.1	9.5	17.3	8.5	—
	24年	10.5	9.1	19.4	10.7	48.2
	25年	9.0	9.2	11.5	9.3	32.5
売店売上	平成20年	7.8	6.2	3.7	7.1	—
	21年	7.4	6.4	3.6	6.5	—
	22年	7.9	5.6	3.7	6.8	—
	23年	7.1	5.1	3.2	6.1	—
	24年	7.3	5.2	3.6	6.2	1.2
	25年	6.8	4.8	3.4	5.7	2.0
その他・雑収入	平成20年	10.9	6.5	3.3	9.2	—
	21年	8.6	7.3	4.4	7.9	—
	22年	8.9	6.9	4.3	7.9	—
	23年	9.2	7.2	1.6	8.0	—
	24年	7.3	5.9	3.9	6.5	9.9
	25年	7.7	5.9	4.2	6.7	3.5
付帯事業	平成20年	1.4	6.5	8.1	3.4	—
	21年	2.2	3.1	4.9	2.7	—
	22年	1.7	3.6	4.1	2.6	—
	23年	1.8	5.0	8.6	3.5	—
	24年	3.4	5.8	5.2	4.5	10.9
	25年	4.0	4.9	3.8	4.3	8.8

(5) その他・雑収入

その他・雑収入は上記の項目以外の収入である。カラオケ酒場や夜食処、コンパニオンの立替え収入などである。パブリック施設が充実している大旅館の比率が高く、小旅館が低い。

(6) 付帯事業

この調査は旅館ホテル業が本業であることを前提としている。旅館ホテル業以外の事業が決算書に含まれる場合、付帯事業として回答することを求めている。具体例として回答されたのは、日帰り入浴施設、レストラン業、大学食堂、ブライダル業、デイサービス、葬儀会館業、清掃業、バス・運輸業、賃貸不動産業、発電事業などとなっている。

4. 宿泊客1人当り売上高 〈図3、表10、表11〉

売上高を宿泊客人数で割り算して求めるのが客単価である。宿泊者数を基本とするものの、日帰り単価を求めるために日帰り客人数も設問している。

(1) 宿泊客1人当り売上高

宿泊客1人当り売上高＝総売上高÷宿泊人員

宿泊客1人当り総売上高には日帰り売上を含むが、付帯事業は含めていない。

中旅館の単価がやや低いが、規模の差はない。前年、小旅館は2万円を下回っていたが、今年度は一前年と同様に2万円を上回っている。

- ・大旅館 黒字 19,541 円 赤字 17,105 円
- ・中旅館 黒字 18,232 円 赤字 18,283 円
- ・小旅館 黒字 25,492 円 赤字 19,879 円

大旅館では赤字旅館の単価が1万7,105円となっている。

(ホテル) 10,038 円と旅館を下回る額となっている。

(2) 宿泊客1人当り宿泊料売上

客1人当り宿泊料売上＝宿泊料売上高÷宿泊人員

客1人当りの宿泊料売上はすなわち宿泊料単価である。

各規模とも前年からは回復している。特に小旅館は17,789円と前年を4,000円以上上回る結果となっている。

- ・大旅館 13,317 円 (+ 335 円、+2.6%)
 - ・中旅館 13,155 円 (+ 71 円、+0.5%)
 - ・小旅館 17,789 円 (+4,475 円、+33.6%)
- 黒字、赤字別でみると黒字が高く赤字が低い。小旅館ではその差が顕著となっている。

- ・大旅館 黒字 13,673 円 赤字 11,890 円
 - ・中旅館 黒字 13,114 円 赤字 13,287 円
 - ・小旅館 黒字 19,558 円 赤字 13,932 円
- (ホテル) 5,200 円と旅館よりも大幅に低い。

会員ホテルが地方都市を中心に立地するため、価格競争は激しいと思われる。

(3) 宿泊客1人当り料飲売上

客1人当り料飲売上＝料飲売上高÷宿泊人員

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫の合計を宿泊客1人当り料飲売上としている。旅館の平均は1,180 円となっている。前年より小旅館が29.9%増加、中旅館も23.9%の増加となっている。

一方で、大旅館がマイナスとなっている。

平成20年の大旅館は2,122 円でここ数年で半減している。

アルコール類の持ち込みの増加、消費量の低下などが原因であろう。

- ・大旅館 1,093 円 (▲91 円、▲7.7%)
- ・中旅館 1,279 円 (+247 円、+23.9%)
- ・小旅館 1,237 円 (+285 円、+29.9%)

図3 客1人当り売上高の推移

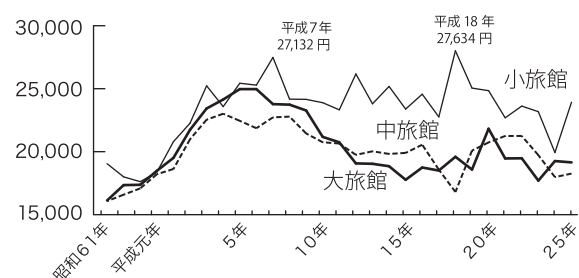


表10 宿泊客1人当り売上高 (単位: 円)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成20年	21,483	20,497	24,604	21,228	—
21年	19,339	20,961	22,540	20,064	—
22年	19,350	20,962	23,432	20,139	—
23年	17,737	19,577	23,006	18,668	—
24年	19,150	17,992	19,919	18,737	18,590
25年	19,054	18,245	23,726	19,008	10,038

黒字・赤字別でみると、赤字の大旅館が低くなっている。

- ・大旅館 黒字 1,109 円 赤字 1,031 円
- ・中旅館 黒字 1,256 円 赤字 1,348 円
- ・小旅館 黒字 1,255 円 赤字 1,196 円

(ホテル)647 円と旅館に比較するとさらに低くなっている。

(4) 宿泊客 1 人当り売店売上

客 1 人当り売店売上＝売店売上高 ÷ 宿泊人員

長期的には低下傾向にある。前年にやや回復が見られたものの今年は平均で1,131円と前年をやや下回る結果となっている。大旅館ほど売店の平均単価は高い。

- ・大旅館 1,341 円 (▲102 円、▲7.1%)
- ・中旅館 921 円 (▲87 円、▲8.7%)
- ・小旅館 849 円 (+94 円、+12.5%)

(ホテル)売店単価は 223 円と旅館平均の 2 割程度の水準にある。

(5) 宿泊客 1 人当りその他・雑収入 〈表 12〉

宿泊客 1 人当りその他・雑収入＝

(その他売上+雑収入) ÷ 宿泊人員

館内のカラオケ酒場や夜食処の売上、出前、花代(コンパニオン)、マッサージなどの手数料収入などを「その他売上」として設問している。そこに「雑収入」を合計して、この単価を算出している。

付帯施設が充実している大旅館ほど消費単価は高く、小旅館は低い。それでも、小旅館は27.1%アップとなっている。

- ・大旅館 1,528 円 (+72 円、4.9%)
- ・中旅館 1,128 円 (▲1 円、▲0.1%)
- ・小旅館 1,038 円 (+221 円、+27.1%)

(ホテル)384 円と旅館平均の 3 割弱である。

(6) 日帰り客 1 人当り売上

日帰り客 1 人当り売上＝日帰り客料飲売上

÷ 日帰り食事利用人員

日帰り単価は大旅館、小旅館で5,000円を下回る。

- ・大旅館 4,956 円 (▲28 円、▲0.6%)
- ・中旅館 5,439 円 (525 円、10.7%)
- ・小旅館 4,719 円 (319 円、7.3%)

(ホテル)2,859 円と前年比▲67% となっている。

表11 宿泊客一人当り売上高

(単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
客一人当り宿泊料売上	平成20年	13,472	13,123	15,832	13,418	－
	21年	13,129	13,899	14,586	13,471	－
	22年	13,367	14,020	15,608	13,711	－
	23年	12,153	13,209	14,772	12,675	－
	24年	12,982	13,084	13,314	13,049	5,934
	25年	13,317	13,155	17,789	13,528	5,200
客一人当り料飲売上	平成20年	2,122	1,550	739	1,883	－
	21年	1,320	1,336	1,613	1,339	－
	22年	1,140	1,247	1,258	1,186	－
	23年	1,122	1,118	1,181	1,122	－
	24年	1,184	1,032	952	1,104	281
	25年	1,093	1,279	1,237	1,180	647
客一人当り売店売上	平成20年	1,679	1,275	909	1,516	－
	21年	1,432	1,155	946	1,311	－
	22年	1,531	1,172	863	1,366	－
	23年	1,256	1,003	730	1,134	－
	24年	1,443	999	755	1,210	249
	25年	1,341	912	849	1,131	223

表12 宿泊客一人当り売上高

(単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
客1人当りその他・雑収入	平成20年	2,333	1,343	817	1,945	－
	21年	1,672	1,522	981	1,587	－
	22年	1,726	1,450	1,011	1,590	－
	23年	1,638	1,402	367	1,500	－
	24年	1,456	1,129	817	1,274	2,069
	25年	1,528	1,128	1,038	1,330	384
日帰り客1人当り売上	平成20年	7,868	4,576	6,447	6,080	－
	21年	5,771	5,846	4,901	5,724	－
	22年	5,716	5,317	5,489	5,488	－
	23年	5,211	4,921	5,243	5,070	－
	24年	4,984	4,914	4,400	4,865	4,258
	25年	4,956	5,439	4,719	5,116	2,859

5. 定員稼働率・客室稼働率 〈図4、表13、表14〉

旅館ホテル業の稼働率は定員と客室を基準とする。ホテルの客室はシングルやツインであるが、旅館の客室は1室定員が多い。そのために旅館では定員どおりの販売が難しい。

旅館の定員稼働率は客室稼働を下回る。

(1) 定員稼働率

定員稼働率＝宿泊人員÷

(収容定員×営業日数)×100

大旅館の定員稼働率は最盛期には55%を超えていた。各規模とも前年を上回るとはいえ、緩やかであるが長期的に低下している。規模が大きいほど高稼働となっている。

- ・大旅館 37.2% (+0.7p)
- ・中旅館 35.4% (+2.1p)
- ・小旅館 31.1% (+2.8p)

黒字旅館は高稼働で、赤字旅館は低稼働である。

- ・大旅館 黒字 38.9% 赤字 31.8%
- ・中旅館 黒字 37.5% 赤字 29.8%
- ・小旅館 黒字 34.2% 赤字 26.0%

(ホテル) 定員稼働率は49.2%となっている。旅館よりも高稼働である。

(2) 客室稼働率

客室稼働率＝利用客室数÷

(客室数×営業日数)×100

客室稼働率は定員稼働率より高くなっている。長期的に1室利用人員が低下しているため、定員稼働率と客室稼働率の差が大きくなっている。

- ・大旅館 56.8% (▲2.6p)
- ・中旅館 60.4% (+1.0p)
- ・小旅館 48.5% (▲0.6p)

なお定員稼働率は有効回答のすべての旅館が回答しているが、客室稼働率は利用客室数の統計を取っていないところが多く192軒にとどまる。251軒に対する回答率は76.4%となっている。

(ホテル)客室稼働は60.3%で旅館とさほど変わらない。客室稼働の回答率は21軒中17軒で80.9%となっている。

図4 定員稼働率の推移 (%)

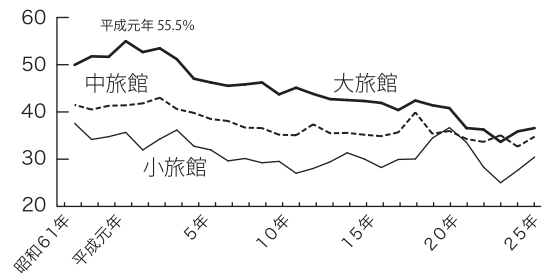


表13 定員稼働率・客室稼働率

(単位: 円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
定員稼働率	平成20年	41.4	36.6	37.3	39.7
	21年	37.2	34.9	34.2	36.2
	22年	36.9	34.3	29.0	35.5
	23年	34.3	35.7	25.7	34.5
	24年	36.5	33.3	28.3	34.4
	25年	37.2	35.4	31.1	36.0
客室稼働率	平成20年	65.3	59.7	54.5	63.2
	21年	60.0	54.2	45.9	57.4
	22年	62.0	58.6	45.3	59.9
	23年	57.7	58.7	45.4	57.8
	24年	59.4	59.4	49.1	58.5
	25年	56.8	60.4	48.5	57.8
1室当り宿泊利用人員	平成20年	2.8	2.8	3.6	2.8
	21年	2.7	2.9	2.9	2.8
	22年	2.83	2.69	2.53	2.77
	23年	2.61	2.72	2.28	2.65
	24年	2.67	2.67	2.40	2.65
	25年	2.81	2.66	2.66	2.73

表14 地域別稼働率

(単位: 円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館
定員稼働率	北 海 道	34.0	37.3	26.5
	東 北	33.1	32.6	20.3
	関 東	—	32.6	38.1
	北 陸 信 越	37.1	28.6	29.8
	中 部	50.9	34.4	23.6
	関 西	35.0	40.1	40.8
	中 国	32.7	37.2	25.0
	四 国	36.3	39.7	31.3
	九 州	44.0	38.3	46.0
客室稼働率	北 海 道	56.3	68.4	52.7
	東 北	56.6	57.4	32.3
	関 東	—	53.5	59.6
	北 陸 信 越	70.2	50.6	49.7
	中 部	75.3	58.3	41.8
	関 西	48.7	57.3	54.5
	中 国	65.2	76.1	38.1
	四 国	53.7	66.7	47.7
	九 州	—	64.6	60.2

6. 売上効率 〈図5、表15〉

(1) 1室当り売上高

1室当り売上高＝総売上高÷客室数

宿泊業にとって客室は営業基盤である。客室当りの年間売上高は、旅館平均で前年より2.7%増となっている。特に小旅館の伸びが顕著である。

- ・大旅館 1,112万円 (▲11万円、▲1.0%)
- ・中旅館 1,115万円 (+40万円、+3.7%)
- ・小旅館 1,097万円 (+210万円、+23.6%)

黒字旅館と赤字旅館を比較すると圧倒的に黒字旅館の方が多い。

- ・大旅館 黒字 1,196万円 赤字 838万円
- ・中旅館 黒字 1,197万円 赤字 912万円
- ・小旅館 黒字 1,287万円 赤字 778万円

(ホテル) 1室売上高は370万円と旅館の33.2%にとどまる。1室が小さく面積当りの部屋数が多い。

(2) 建物面積1㎡当り売上高

建物面積1㎡当り売上高＝総売上高÷建物延べ面積

建物面積当り売上高は、営業形態の複合的な要因を排除して営業効率を分析するのに適した指標である。今年度は有効回答251軒に対し建物延べ面積の回答は224軒と89.2%となっている。

建物面積1㎡当り売上高の平均は7.8万円となっている。大旅館は前年と同様で7.9万円となっている。

中旅館は前年を下回った。小旅館の数値が前年より+15.2%となっている。

- ・大旅館 7.9万円 (+0万円、+0%)
- ・中旅館 7.5万円 (▲0.2万円、▲2.2%)
- ・小旅館 8.5万円 (+1.1万円、+15.2%)

黒字・赤字の別でも顕著な差がある。

中旅館の赤字が特に低い。

- ・大旅館 黒字 8.4万円 赤字 6.2万円
- ・中旅館 黒字 8.3万円 赤字 5.8万円
- ・小旅館 黒字 9.7万円 赤字 6.8万円

(ホテル) 建物面積1㎡当り売上高は7.6万円、大旅館の平均と並んでいる。

(3) 就業者1人当り売上高

就業者1人当り売上高＝総売上高÷就業者数

旅館ホテル業の従事者は社員のみならずパートタイマー、アルバイト、派遣社員や委託先で構成されている。この調査では常勤役員、社員、常勤パートを就業者とし、就業者当りの指標を算出する。

就業者1人当り売上高は大旅館で前年を下回り、小旅館は7.2%増となっている。

- ・大旅館 1,108万円 (▲64万円、▲5.5%)
- ・中旅館 867万円 (▲36万円、▲0.4%)
- ・小旅館 774万円 (+52万円、+7.2%)

各規模とも黒字・赤字で明確な差がある。

- ・大旅館 黒字 1,126万円 赤字 1,052万円
- ・中旅館 黒字 882万円 赤字 818万円
- ・小旅館 黒字 845万円 赤字 626万円

(ホテル) 719万円となっている。

図5 1室当り売上の推移 (万円)

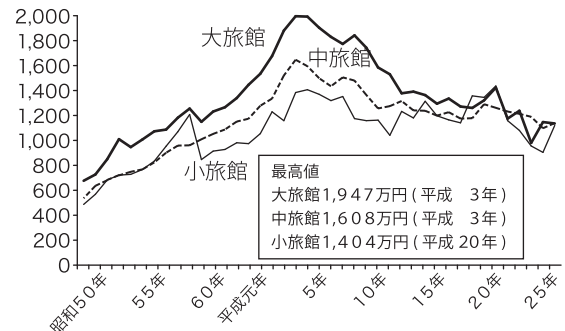


表15 売上効率

(単位: 万円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
1室当り売上高	平成20年	1,391	1,234	1,404	1,334	—
	21年	1,150	1,205	1,134	1,169	—
	22年	1,211	1,187	1,058	1,193	—
	23年	961	1,164	937	1,039	—
	24年	1,123	1,075	887	1,081	579
	25年	1,112	1,115	1,097	1,112	370
建物1㎡当り売上高	平成20年	9.6	8.6	10.1	9.2	—
	21年	7.9	8.1	8.1	8.0	—
	22年	8.1	8.0	8.6	8.1	—
	23年	6.8	7.8	7.5	7.2	—
	24年	7.9	7.7	7.4	7.7	8.8
	25年	7.9	7.5	8.5	7.8	7.6
就業者1人当り売上高	平成20年	1,256	1,005	790	1,138	—
	21年	1,149	963	810	1,051	—
	22年	1,176	926	808	1,045	—
	23年	1,175	905	747	1,021	—
	24年	1,172	903	722	1,008	941
	25年	1,108	867	774	952	719

7. 原価効率 〈図6、表16〉

(1) 売上総原価率

売上総原価率＝売上原価 ÷ 総売上高 ×100

売上原価は料理材料費や飲料仕入、売店仕入など直接原価の合計である。総原価率は平均で24.6%と前年並みとなっている。規模別にも顕著な差はみられない。昭和60年代からのグラフをみると長期的な低下傾向にある。売店やコンパニオンなど原価率の高い商品の売上げ低迷が考えられる。

- ・大旅館 25.1% (+0.5p)
- ・中旅館 24.2% (▲1.0p)
- ・小旅館 23.1% (▲1.4p)

黒字・赤字別でも顕著な差はみられない。

- ・大旅館 黒字 25.0% 赤字 25.2%
- ・中旅館 黒字 24.4% 赤字 23.4%
- ・小旅館 黒字 23.0% 赤字 23.3%

(ホテル) 売上総原価率は20.7%と旅館業と比較して低い。

(2) 料理材料費率

料理材料費率＝料理材料費 ÷
(宿泊料+追加料理+日帰り料理売上)×100

1泊2食付宿泊料金を基準に原価管理している旅館業は販売価格の上昇下降にかかわらず料理材料費率は大きく変動しない。旅館については宿泊料を分母に入れて料理材料費率を算出している。

料理材料費率は規模の差は顕著ではない。

- ・大旅館 19.7% (+0.4p)
- ・中旅館 20.1% (▲0.1p)
- ・小旅館 20.0% (▲0.6p)

黒字・赤字別にも顕著な差はみられなかった。

- ・大旅館 黒字 19.9% 赤字 19.1%
- ・中旅館 黒字 20.1% 赤字 20.0%
- ・小旅館 黒字 19.8% 赤字 20.4%

(ホテル) 料理材料費率の算出には宿泊室料を分母に入れていない。結果、旅館業よりも高く40.2%となっている。

(3) 飲料仕入率

飲料仕入率＝飲料仕入 ÷ 飲料売上 ×100

飲料仕入率は平均32.2%となっている。大旅館が低い。

- ・大旅館 31.5% (▲0.1p)
- ・中旅館 33.0% (▲1.2p)
- ・小旅館 32.8% (▲1.3p)

(ホテル) 飲料仕入率は32.8%で小旅館と同じ。

(4) 売店仕入率

売店仕入率＝売店仕入 ÷ 売店売上 ×100

図6 売上総原価率の推移 (%)

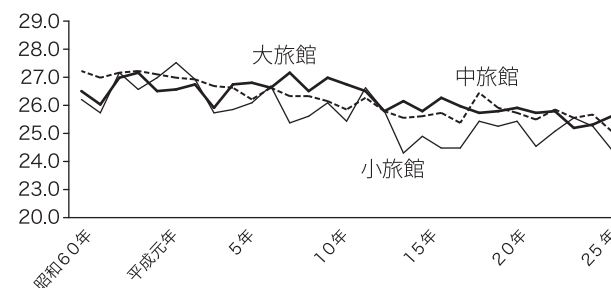


表16 原価率

(単位: %)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総原価率	平成20年	25.6	25.3	24.8	25.5	－
	21年	25.3	24.9	23.3	25.0	－
	22年	25.4	25.5	24.2	25.4	－
	23年	24.4	25.0	25.0	24.7	－
	24年	24.6	25.2	24.5	24.8	28.1
	25年	25.1	24.2	23.1	24.6	20.7
料理材料費率	平成20年	20.4	21.3	20.9	20.7	－
	21年	19.9	20.3	20.1	20.0	－
	22年	19.7	21.1	20.3	20.3	－
	23年	19.2	20.7	21.8	20.0	－
	24年	19.3	20.2	20.6	19.8	35.5
	25年	19.7	20.1	20.0	19.9	40.2
飲料仕入率	平成20年	23.4	32.0	10.9	26.1	－
	21年	33.0	32.2	31.9	32.6	－
	22年	32.1	32.3	33.9	32.3	－
	23年	31.7	32.3	37.6	32.2	－
	24年	31.6	34.2	34.1	32.9	31.3
	25年	31.5	33.0	32.8	32.2	32.8
売店仕入率	平成20年	66.1	64.9	79.9	66.0	－
	21年	65.6	67.2	70.4	66.3	－
	22年	67.7	66.9	67.2	67.5	－
	23年	67.0	65.9	64.8	66.5	－
	24年	66.6	65.7	66.8	66.3	70.0
	25年	66.6	67.8	64.6	66.9	70.2

売店原価率は中旅館で上昇し、小旅館で低下した。

- ・大旅館 66.6% (+0.0p)
- ・中旅館 67.8% (+2.1p)
- ・小旅館 64.6% (▲2.2p)

(ホテル)売店原価率は70.2%で旅館業と比較すると高くなっている。

8. 経費率 〈表 17〉

(1) 人件費率

人件費率=人件費 ÷ 総売上高 ×100

給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費の合計を人件費としている。労働集約産業である旅館ホテル業では人件費が高くなる傾向にある。

売上高に占める人件費の割合は前年並みとなっている。小旅館では0.5pの低下となっているが、それでも大旅館、中旅館より高い。人の効率が良さから大旅館で低く、小旅館は高くなっている。

- ・大旅館 30.3% (0.1p)
- ・中旅館 30.7% (▲1.8p)
- ・小旅館 35.3% (▲0.5p)

赤字旅館は黒字旅館よりも人件費率が高くなっている。特に赤字小旅館では36.5%と高い。

- ・大旅館 黒字 30.2% 赤字 30.7%
- ・中旅館 黒字 30.3% 赤字 31.8%
- ・小旅館 黒字 34.9% 赤字 36.5%

(ホテル)人件費率は29.8%と旅館業の平均とほぼ同じ数値である。

(2) 営業経費率

営業経費率=営業経費 ÷ 総売上高 ×100

送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費といった販売経費。客用消耗品費、洗濯リネン費といった利用人員に比例する経費をもって営業経費としている。営業経費率は前年とほぼ同水準となっている。

- ・大旅館 13.0% (+0.3p)
- ・中旅館 13.9% (▲0.1p)
- ・小旅館 12.1% (▲0.3p)

また、黒字・赤字別でみると赤字中旅館が高いが、顕著な差は認められなかった。

- ・大旅館 黒字 12.9% 赤字 13.1%
- ・中旅館 黒字 13.9% 赤字 13.7%
- ・小旅館 黒字 11.9% 赤字 12.6%

(ホテル) 営業経費率は11.5%と旅館業と比較して低い。旅行業経由の宿泊客が少ないことが理由だと思われる。

(3) 管理経費率

管理経費率=管理経費 ÷ 総売上高 ×100

人件費、営業経費、減価償却費を除く費用を管理経費としている。主なものは水道光熱費、修繕費、備品費、賃借料、通信費となっている。

表17 経費率

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
人件費率	平成20年	31.1	31.4	34.3	31.3	—
	21年	31.2	32.8	36.7	32.1	—
	22年	31.5	32.3	37.8	32.1	—
	23年	30.6	32.5	40.6	31.8	—
	24年	30.2	32.5	35.8	31.6	34.8
	25年	30.3	30.7	35.3	30.9	29.8
営業経費率	平成20年	13.6	13.4	12.1	13.5	—
	21年	13.6	13.4	11.9	13.4	—
	22年	13.5	13.7	12.4	13.5	—
	23年	13.6	13.7	12.4	13.6	—
	24年	12.7	14.0	12.4	13.2	9.4
	25年	13.0	13.9	12.1	13.3	11.5
管理経費率	平成20年	20.5	21.2	19.9	20.7	—
	21年	20.3	22.0	21.2	20.9	—
	22年	20.3	22.1	21.4	21.1	—
	23年	22.2	22.3	21.6	22.2	—
	24年	21.8	21.1	22.3	21.6	21.7
	25年	21.8	22.9	21.0	22.2	25.2
減価償却費率	平成20年	7.1	7.9	5.6	7.3	—
	21年	7.7	6.9	7.6	7.4	—
	22年	7.8	7.0	7.0	7.4	—
	23年	7.7	6.3	7.0	7.1	—
	24年	7.1	6.4	5.8	6.7	5.7
	25年	6.1	5.7	6.8	6.0	4.9
支払利息率	平成20年	4.1	3.3	2.7	3.8	—
	21年	4.1	3.4	2.9	3.8	—
	22年	4.4	3.4	3.0	3.9	—
	23年	3.7	2.8	2.3	3.3	—
	24年	3.2	3.2	2.2	3.1	3.8
	25年	2.8	2.7	2.1	2.7	2.1

管理経費は固定費的要素が強いため売上が変動しても容易に変わらない。また、規模による差はあまりみられない。

- ・大旅館 21.8% (+0.0p)
- ・中旅館 22.9% (+1.8p)
- ・小旅館 21.0% (▲1.3p)

黒字旅館が低く赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字 20.8% 赤字 26.3%
- ・中旅館 黒字 21.1% 赤字 28.7%
- ・小旅館 黒字 19.0% 赤字 26.5%

(ホテル) 管理経費率は25.2%と旅館業よりと高くなっている。

(4) 減価償却費率

減価償却費率=減価償却費 ÷ 総売上高 ×100

建物等の償却資産を毎年減価償却費として計上する経費であり、売上や収益に関係なく計上される。

旅館平均では前年より▲0.7p となっている。

- ・大旅館 6.1% (▲1.0p)
- ・中旅館 5.7% (▲0.7p)

- ・小旅館 6.8% (+1.0p)

赤字の小旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字 6.0% 赤字 6.3%
- ・中旅館 黒字 5.4% 赤字 6.6%
- ・小旅館 黒字 6.3% 赤字 8.2%

(ホテル) 減価償却費率は4.9%と、旅館より1.1ポイント低い。

(5) 支払利息率

支払利息率=支払利息 ÷ 総売上高 ×100

支払利息率は売上高に占める支払利息の割合である。ほぼ前年並みである。小旅館が少ない。

- ・大旅館 2.8% (▲0.4p)
- ・中旅館 2.7% (▲0.5p)
- ・小旅館 2.1% (▲0.1p)

(ホテル) 支払利息率は2.1%と旅館業より多い。

9. 主要経費構成比 〈表 18〉

経費率=経費 ÷ 総売上高

表18 主要経費構成比

(単位：%)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	24年度	25年	24年度	25年	24年度	25年	24年度	25年	24年度	25年
総売上高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
売上原価	24.6	25.1	25.1	24.2	24.6	23.4	24.8	24.6	26.2	20.6
売上総利益	75.4	74.9	74.9	75.8	75.4	76.6	75.2	75.4	73.8	79.4
販売費及び一般管理費	71.9	71.2	74.0	73.2	76.3	75.3	73.1	72.3	71.7	71.4
人件費	30.2	30.3	32.5	30.7	35.8	35.3	31.6	30.9	34.8	29.8
給与・賞与	20.9	20.8	25.1	23.6	29.5	29.4	23.2	22.6	26.3	23.9
法定福利費	2.6	2.6	2.9	2.9	3.3	3.2	2.7	2.8	3.2	2.9
その他人件費	0.9	1.1	1.3	1.8	1.6	0.9	1.1	1.4	1.1	0.4
外注費	5.8	5.8	3.3	2.4	1.3	1.8	4.5	4.2	4.3	2.6
営業経費	12.7	13.0	14.0	13.9	12.4	12.1	13.2	13.3	9.4	11.5
送客手数料	7.2	7.0	7.3	7.1	5.0	4.3	7.0	6.8	3.0	3.6
カード手数料	0.4	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	0.5	0.5	0.6	1.0
広告宣伝費	1.3	1.3	1.5	1.5	1.3	1.4	1.4	1.4	1.3	0.8
接待交際費	0.2	0.3	0.3	0.3	0.6	0.5	0.3	0.3	0.4	0.3
旅費交通費	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5
客用消耗品費	1.6	1.8	2.0	2.2	2.5	2.8	1.8	2.0	1.7	2.2
洗濯リネン費	1.6	1.6	1.8	1.7	1.8	1.7	1.7	1.7	1.9	3.0
管理経費	21.8	21.8	21.1	22.9	22.3	21.0	21.6	22.2	21.7	25.2
水道光熱費	7.1	7.0	7.3	7.7	7.2	6.9	7.2	7.3	8.1	8.5
修繕費	1.8	2.1	2.0	2.1	3.0	2.2	1.9	2.1	1.2	1.4
備品費	1.1	0.9	1.1	0.9	1.2	0.7	1.1	0.9	1.1	1.3
貸借料	2.3	2.9	1.5	2.2	2.3	1.9	2.0	2.6	4.1	3.8
通信費	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.6	0.4	0.4	0.4	0.5
その他	9.2	8.5	8.9	9.6	8.2	8.7	9.0	9.0	6.9	9.8
G O P 利益	10.7	9.8	7.3	8.3	4.9	8.1	8.9	9.1	7.8	12.9
減価償却費	7.1	6.1	6.4	5.7	5.8	6.8	6.7	6.0	5.7	4.9
営業利益	3.5	3.8	0.9	2.6	△ 0.9	1.3	2.1	3.1	2.1	8.0
営業外収益	2.8	2.7	2.2	2.2	2.6	3.2	2.5	2.6	1.7	1.0
営業外費用	3.4	2.9	3.3	2.9	2.8	2.2	3.3	2.9	4.0	2.2
(うち支払利息)	3.2	2.8	3.2	2.7	2.2	2.1	3.1	2.7	3.8	2.1
経常利益	2.9	3.6	△ 0.3	2.0	△ 1.1	2.3	1.3	2.8	△ 0.1	6.8
償却前利益	10.0	9.6	6.1	7.6	4.7	9.1	8.1	8.8	5.6	11.7

(注) GOP 利益は Gross Operation Profit の略で業務総利益。減価償却費+営業利益で求めている。

主要経費の内訳をみると、

売上原価率が高いのは大旅館で25.1%となっている。

人件費率が高いのは小旅館で35.3%となっている。

営業経費率が高いのは中旅館で13.9%となっている。

管理経費率が高いのは中旅館で22.9%となっている。

GOP 利益率は大旅館で9.8%となっている。

ホテルの GOP 利益率は 12.9% と旅館を上回っている。

10. 客 1 人当り経費 〈表 19〉

客1人当り経費＝経費 ÷ 宿泊人員

宿泊客 1 人当り経費は売上単価に概ね比例する。この表では客 1 人当り総売上高に付帯事業売上を含めている。前年と比較すると客当り総売上高は、大旅館で13 円増加し、小旅館で 4,000 円近く増加している。

(ホテル)客当り総売上は前年より大幅な減額となっている。

(1) 客 1 人当り人件費

小旅館が高く大旅館が低い。

・大旅館 6,016 円 (+ 21 円、+0.3%)

・中旅館 5,848 円 (▲ 395 円、▲6.3%)

・小旅館 8,775 円 (+ 1,242 円、+16.5%)

(ホテル) 旅館の 54% となっている。

(2) 客 1 人当り営業経費

送客手数料が大旅館と中旅館で多い。小旅館は客用消耗品が高額となっている。

・大旅館 2,574 円 (+52 円、+ 2.1%)

・中旅館 2,641 円 (▲51 円、▲1.9%)

・小旅館 3,005 円 (+391 円、+ 15.0%)

(ホテル) 送客手数料は旅館に比較し少ない。

(3) 客 1 人当り管理経費

中旅館と小旅館で増加となっている。

・大旅館 4,321 円 (▲ 10 円、▲0.22%)

・中旅館 4,369 円 (+302 円、+ 7.4%)

・小旅館 5,215 円 (+512 円、+10.9%)

(ホテル) 管理経費は旅館に比較し低い。

表19 宿泊客1人当り主要経費

(単位：円)

(単位：円)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	24年度	25年	24年度	25年	24年度	25年	24年度	25年	24年度	25年
総 売 上 高	19,829	19,842	19,228	19,049	21,060	24,827	19,678	19,817	18,933	11,074
売 上 原 価	4,870	4,977	4,830	4,608	5,180	5,820	4,877	4,876	4,961	2,283
売 上 総 利 益	14,959	14,865	14,397	14,441	15,880	19,007	14,801	14,941	13,972	8,790
販売費及び一般管理費	14,261	14,119	14,232	13,937	16,077	18,683	14,385	14,321	13,570	7,907
人 件 費	5,995	6,016	6,243	5,848	7,533	8,775	6,210	6,114	6,595	3,301
給 与 ・ 賞 与	4,147	4,123	4,822	4,502	6,216	7,293	4,574	4,472	4,977	2,647
法 定 福 利 費	506	523	553	544	704	802	540	548	604	324
そ の 他 人 件 費	187	217	241	343	332	222	220	269	205	44
外 注 費	1,154	1,154	628	459	280	459	876	825	809	285
営 業 経 費	2,522	2,574	2,692	2,641	2,614	3,005	2,597	2,628	1,784	1,268
送 客 手 数 料	1,418	1,388	1,407	1,356	1,052	1,080	1,386	1,356	570	399
カ ー ド 手 数 料	81	93	91	109	150	167	90	104	109	111
広 告 宣 伝 費	248	263	287	276	279	346	266	273	254	91
接 待 交 際 費	45	59	52	49	120	122	53	59	69	32
旅 費 交 通 費	105	95	113	103	112	155	109	102	85	60
客 用 消 耗 品 費	311	353	393	420	524	704	360	402	331	243
洗 濯 リ ネ ン 費	314	323	349	328	378	431	333	332	367	332
管 理 経 費	4,331	4,321	4,066	4,369	4,703	5,215	4,252	4,395	4,117	2,791
水 道 光 熱 費	1,410	1,397	1,402	1,469	1,518	1,707	1,415	1,446	1,534	937
修 繕 費	350	410	380	402	631	551	383	415	231	157
備 品 費	217	182	213	173	253	180	218	178	209	145
貸 借 料	459	573	294	424	479	474	394	506	767	415
通 信 費	62	65	76	79	103	138	71	75	72	56
そ の 他	1,832	1,694	1,702	1,822	1,720	2,165	1,771	1,775	1,305	1,080
G O P 利 益	2,113	1,954	1,396	1,583	1,030	2,007	1,742	1,804	1,475	1,430
減 価 償 却 費	1,415	1,207	1,230	1,080	1,226	1,682	1,326	1,183	1,074	547
営 業 利 益	698	746	166	503	△ 197	324	416	620	402	883
営 業 外 収 益	554	544	422	418	549	805	500	507	329	115
営 業 外 費 用	675	583	638	544	587	548	654	565	751	247
(うち支払利息)	642	549	607	513	456	513	614	532	718	236
経 常 利 益	577	707	△ 50	377	△ 232	581	263	563	△ 20	751
償 却 前 利 益	1,992	1,914	1,180	1,457	994	2,263	1,589	1,746	1,054	1,298

(4) 客1人当り減価償却費

旅館平均では前年より減少しているが、小旅館は増加している。

- ・大旅館 1,207 円 (▲208 円、▲14.6%)
- ・中旅館 1,080 円 (▲150 円、▲12.1%)
- ・小旅館 1,682 円 (+456 円、+37.2%)

(ホテル) 減価償却費は旅館よりも少ない。

(5) 客1人当り営業外費用

各規模とも減額となっている。大旅館と中旅館では 90 円以上の減額となっている。

- ・大旅館 583 円 (▲92 円、▲13.6%)
- ・中旅館 544 円 (▲94 円、▲14.8%)
- ・小旅館 548 円 (▲39 円、▲6.7%)

(ホテル) 247 円と前年の 3 分の 1 となっている。

11. 利益率 〈図7、表20、表21〉

利益とは、「売上－経費」である。売上から原価を引いたものが世間で言う「粗利(あらり)」である。損益計算書では粗利を売上総利益という。さらに利益には諸経費を控除したところの営業利益など各段階ごとに算出される。

このように分解することで経営の「つまづき」を知ることができる。

(1) 売上総利益率

売上総利益率＝売上総利益 ÷ 総売上高 × 100

売上総利益は原材料に価値を加えたから付加価値額ともいわれる。平均で 0.2p の増加となっている。

- ・大旅館 74.9% (▲0.5p)
- ・中旅館 75.8% (+0.9p)
- ・小旅館 76.6% (+1.2p)

黒字・赤字別では顕著な差はみられない。

- ・大旅館 黒字 75.0% 赤字 74.8%
- ・中旅館 黒字 75.6% 赤字 76.6%
- ・小旅館 黒字 76.5% 赤字 76.7%

(ホテル) 売上総利益率は旅館に比較し 4.0p 高い。

(2) GOP 利益率 (償却前営業利益率)

GOP 利益率＝(減価償却費＋営業利益) ÷ 総売上高 × 100

GOP 利益は、売上高から運営経費を控除した利益である。

GOP は Gross Operation Profit の略で、直訳すれば「運営総利益」となる。Profit は利益であるから GOP 利益という表現はおかしいがあえて利益をつけて表現している。

運営経費には減価償却費や固定資産税、支払利息などは含まれないが、この調査では減価償却費と営業利益の合計で求めている。安定した黒字経営のためにはGOP利益

10%が目安となる。

平均で前年より +0.2p 改善している。

- ・大旅館 9.8% (▲0.9p)
- ・中旅館 8.3% (+1.0p)
- ・小旅館 8.1% (+3.2p)

黒字・赤字別では明らかに違う。

- ・大旅館 黒字 11.0% 赤字 4.6%
- ・中旅館 黒字 10.2% 赤字 2.4%
- ・小旅館 黒字 10.7% 赤字 1.1%

(ホテル) GOP 利益率は12.9%と旅館業に比較し、高くなっている。

(3) 営業利益率 〈図7〉

営業利益率＝営業利益 ÷ 総売上高 × 100

GOP 利益からさらに減価償却費を差し引いたのが営業利益である。平均では前年より、+1.0p となっている。

- ・大旅館 3.8% (+0.3p)
- ・中旅館 2.6% (+1.7p)
- ・小旅館 1.3% (+2.2p)

(ホテル) 8.0%と旅館より 4.9p 高い。

図7 営業利益率の推移 (%)

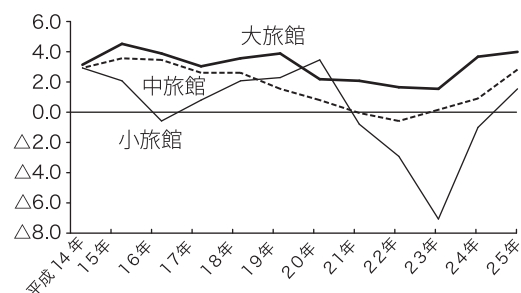


表20 利益率

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総利益率	平成20年	74.4	74.7	75.2	74.5	－
	21年	74.7	75.1	76.7	75.0	－
	22年	74.6	74.5	75.8	74.6	－
	23年	75.6	75.0	74.9	75.3	－
	24年	75.4	74.9	75.4	75.2	73.8
	25年	74.9	75.8	76.6	75.4	79.4
G O P 利益率	平成20年	9.2	8.6	8.9	9.0	－
	21年	9.7	7.0	6.9	8.5	－
	22年	9.3	6.5	4.3	7.9	－
	23年	9.2	6.5	0.2	7.7	－
	24年	10.7	7.3	4.9	8.9	7.8
	25年	9.8	8.3	8.1	9.1	12.9
営業利益率	平成20年	2.1	0.8	3.3	1.7	－
	21年	2.0	0.0	△ 0.7	1.1	－
	22年	1.6	△ 0.5	△ 2.7	0.5	－
	23年	1.5	0.2	△ 6.8	0.6	－
	24年	3.5	0.9	△ 0.9	2.1	2.1
	25年	3.8	2.6	1.3	3.1	8.0

(4) 経常利益率

経常利益率＝経常利益 ÷ 総売上高 × 100

営業利益に営業外収益を加え、営業外費用を差し引いたのが経常利益である。平均は2.8%の黒字となっている。

軒数では黒字167軒(66.5%)、赤字は84軒(33.5%)となっている。

- ・大旅館 3.6% (+0.7p)
- ・中旅館 2.0% (+2.3p)
- ・小旅館 2.3% (+3.4p)

(ホテル) 経常利益率は6.8%と旅館平均より上回っている。

(5) 償却前利益率

償却前利益率＝(減価償却費 + 税引き前利益)

÷ 総売上高 × 100

経常利益に減価償却費を加えたのが償却前利益である。減価償却費は資産償却で現金の支出を伴わない。したがって、償却前利益が営業上発生する現金である。この利益が返済原資である。

大旅館と小旅館で増加となっている。

- ・大旅館 9.6% (+2.6p)
- ・中旅館 7.6% (▲1.4p)
- ・小旅館 9.1% (+4.0p)

(ホテル) 11.7%と旅館より高くなっている。

12. 就業者 〈表 22、表 23〉

旅館ホテル業では様々な雇用形態の人が従事している。

本調査では常勤者である常勤役員、正社員、常勤パートタイマーを就業者としている。

(1) 就業者の数

就業者数＝常勤役員＋正社員＋常勤パートタイマー

各規模とも増員となっている。

- ・大旅館 165人 (+4人、+2.5%)
- ・中旅館 75人 (+1人、+1.4%)
- ・小旅館 28人 (+4人、+16.7%)

(ホテル) 34人で減員となっている。

(2) 正社員の平均年齢

男性は平均で0.5歳アップ。小旅館は0.2歳若返ったが、大旅館中旅館より高い。

女性は平均で前年変わらずとなっている。大旅館ほど若いのは新卒の採用があるからであろう。

表 21 利益率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル	
経常利益率	平成20年	1.8	△ 0.8	1.0	0.9	－
	21年	△ 0.1	△ 1.5	2.0	△ 0.5	－
	22年	△ 0.7	△ 1.8	△ 1.8	△ 1.1	－
	23年	△ 0.6	△ 2.8	△ 3.6	△ 1.6	－
	24年	2.9	△ 0.3	△ 1.1	1.3	△ 0.1
	25年	3.6	2.0	2.3	2.8	6.8
償却前利益率	平成20年	5.2	5.8	8.1	5.5	－
	21年	6.7	4.8	6.1	6.0	－
	22年	6.5	3.8	3.9	5.3	－
	23年	7.0	4.3	1.0	5.6	－
	24年	7.0	9.0	5.1	7.7	4.9
	25年	9.6	7.6	9.1	8.8	11.7

表 22 就業者数・客室係人数 (単位：人)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
就業者数	平成20年	174	72	39	102	—
	21年	154	74	29	90	—
	22年	152	77	28	90	—
	23年	137	79	26	87	—
	24年	161	74	24	77	46
	25年	165	75	28	78	34

表 23 正社員の年齢 (単位：歳)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
男性	平成20年	42.4	45.4	46.3	44.5	—
	21年	41.9	44.7	45.4	44.0	—
	22年	41.8	44.3	44.6	43.7	—
	23年	40.8	44.4	44.7	43.4	—
	24年	42.3	44.2	46.7	44.6	45.6
	25年	42.8	45.2	46.5	45.1	44.7
女性	平成20年	39.5	43.3	44.8	42.2	—
	21年	38.2	43.1	46.2	42.2	—
	22年	38.1	41.9	44.1	41.3	—
	23年	36.6	41.9	45.6	40.9	—
	24年	37.1	42.0	45.8	42.3	39.0
	25年	37.3	42.1	46.0	42.3	41.0

13. 従業員効率 〈図 8、表 24、表 25〉

(1) 1 室当り就業者数

1 室当り就業者数＝就業者数 ÷ 客室数

1 室当り就業者数は 1.12 名で前年を 0.04 名上回る。
大旅館で人数減となったが、中旅館と小旅館では微増している。

- ・大旅館 0.91 人 (▲0.05 人、▲5.2%)
- ・中旅館 1.27 人 (+0.05 人、+4.1%)
- ・小旅館 1.52 人 (+0.31 人、+25.6%)

(ホテル) 1 室当り就業者数は 0.64 人で旅館の約 6 割となっている。

黒字・赤字別をみると黒字の方が就業者数は多い。

- ・大旅館 黒字 0.9 人 赤字 0.8 人
- ・中旅館 黒字 1.4 人 赤字 1.0 人
- ・小旅館 黒字 1.6 人 赤字 1.4 人

(2) 就業者 1 人当り年間宿泊人員

就業者 1 人当り年間宿泊人員＝

年間宿泊利用人員 ÷ 就業者数

就業者 1 人当りの宿泊人員は主要指標であるが、大旅館 590 人に対して小旅館は 308 人とどまる。

- ・大旅館 590 人 (▲1 人、▲0.2%)
- ・中旅館 457 人 (▲10 人、▲2.1%)
- ・小旅館 308 人 (▲37 人、▲10.7%)

(ホテル) 494 人と旅館の平均と同数である。

(3) 就業者 1 人当り人件費

就業者 1 人当り人件費＝

(外注費などを含む) 人件費 ÷ 就業者数

人件費には正規給与の他に外注費や臨時・アルバイトの給与、法定福利費などが含まれる。人件費をあえて就業者数で割り出している。大旅館が多く小旅館が少ない。

- ・大旅館 388 万円 (+34 万円、+9.6%)
- ・中旅館 270 万円 (▲25 万円、▲8.5%)
- ・小旅館 270 万円 (+11 万円、+4.2%)

(ホテル) 333 万円と旅館を上回っている。

(4) 労働生産性

労働生産性＝売上総利益 ÷ 就業者数

労働生産性は就業者数 1 人当り売上総利益であり人件費を支払う原資と言われる。

大旅館ほど労働生産性は高く小旅館ほど低い。

- ・大旅館 828 万円 (▲56 万円、▲6.3%)
- ・中旅館 658 万円 (▲18 万円、▲2.7%)
- ・小旅館 593 万円 (+50 万円、+9.2%)

(ホテル) 551 万円と小旅館より少ない。

表 24 従業員効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り就業者数(人)	平成20年	1.11	1.23	1.78	1.17	－
	21年	1.00	1.25	1.40	1.11	－
	22年	1.03	1.28	1.33	1.14	－
	23年	0.82	1.29	1.26	1.02	－
	24年	0.96	1.22	1.21	1.08	0.62
	25年	0.91	1.27	1.52	1.12	0.64
就業者1人当り年間宿泊人員(人)	平成20年	584	491	321	536	－
	21年	594	460	359	524	－
	22年	611	449	353	525	－
	23年	663	458	335	546	－
	24年	591	467	345	511	449
	25年	590	457	308	494	494
就業者1人当り人件費(万円)	平成20年	390	315	272	356	－
	21年	358	316	298	337	－
	22年	370	299	307	335	－
	23年	360	295	313	326	－
	24年	354	295	259	319	318
	25年	388	270	270	321	333

表 25 労働生産性、労働分配率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
労働生産性(万円)	平成20年	934	751	595	848	—
	21年	859	724	622	788	—
	22年	878	691	619	780	—
	23年	889	678	559	769	—
	24年	884	676	543	758	676
	25年	828	658	593	718	551
労働分配率(%)	平成20年	41.8	42.0	45.6	42.0	—
	21年	41.7	43.7	47.9	42.8	—
	22年	42.2	43.3	49.8	43.0	—
	23年	40.5	43.4	54.2	42.2	—
	24年	40.1	43.0	46.3	41.7	43.4
	25年	40.5	40.5	46.2	40.9	37.5

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館で顕著な差がみられる。

- ・大旅館 黒字 841 万円 赤字 786 万円
- ・中旅館 黒字 668 万円 赤字 626 万円
- ・小旅館 黒字 647 万円 赤字 479 万円

(5) 労働分配率 〈図 8〉

労働分配率＝(外注費などを含む) 人件費 ÷
売上総利益×100

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配である。旅館ホテル経営では労働分配率40%以内が基準であると言われる。小旅館では46.2%と前年より改善しているが高い。

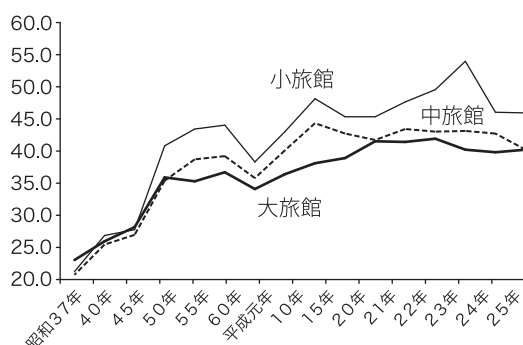
- ・大旅館 40.5% (+0.4p)
- ・中旅館 40.5% (▲2.5p)
- ・小旅館 46.2% (▲0.1p)

(ホテル) 37.5%と前年を 5.9p 改善している。

黒字・赤字別でみると、赤字の小旅館は47%台となっている。

- ・大旅館 黒字 40.3% 赤字 41.1%
- ・中旅館 黒字 40.2% 赤字 41.5%
- ・小旅館 黒字 45.6% 赤字 47.6%

図8 労働分配率の推移 (%)



14. 建物面積効率 〈表 26〉

(1) 1室当り建物延べ面積

1室当り建物延べ面積＝建物延べ面積 ÷ 客室数

小旅館の1室当り面積が小さい。会議室など付帯施設の差であろうか。

- ・大旅館 143 m² (+0 m²、+0.0%)
- ・中旅館 145 m² (+4 m²、+2.7%)
- ・小旅館 119 m² (+0 m²、+0.0%)

(ホテル) 1室当り建物延べ面積は55m²と旅館の半分以下となっている。

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館では提供面積の広い方が黒字となっている。

- ・大旅館 黒字 146 m² 赤字 132 m²
- ・中旅館 黒字 141 m² 赤字 156 m²
- ・小旅館 黒字 120 m² 赤字 118 m²

(2) 定員1人当り提供面積

定員1人当り提供面積＝建物延べ面積 ÷ 収容定員

1室当り面積と同様に大旅館が広く小旅館が小さい。

- ・大旅館 34.9 m² (+1.6 m²、+4.8%)
- ・中旅館 31.5 m² (+1.4 m²、+4.6%)
- ・小旅館 28.2 m² (+0.2 m²、+0.7%)

(ホテル) 31.0 m²で旅館を下回る。

表26 建物面積効率

(単位：m²)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り延べ面積	平成20年	145	143	139	144
	21年	144	149	141	146
	22年	149	146	127	147
	23年	138	148	128	142
	24年	143	141	119	140
	25年	143	145	119	142
定員1人当り延べ面積	平成20年	33.8	31.2	31.9	32.7
	21年	33.6	32.2	30.8	32.9
	22年	31.6	32.0	29.2	31.7
	23年	31.6	32.2	33.2	31.9
	24年	33.3	30.1	28.0	31.5
	25年	34.9	31.5	28.2	32.9

15. 資本効率・資金回収年数 〈表 27〉

(1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示す。中旅館が前年を下回っている。

- ・大旅館 2.1% (+1.9p)
- ・中旅館 1.1% (▲0.3p)
- ・小旅館 1.9% (+2.2p)

(2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \div \text{総資本}$$

総資本回転率は、総資本に対する売上高である。

投下資本がいかに速く回転しているかをみる。高いほどよい。総資本回転率は、業界ごとに標準値が異なる。旅館ホテルにあっては一般に新增改築の直後は低く、資産償却が進むに従って高い値を示す。

今年度は小旅館が改善し 0.66 回と高い値を示している。

- ・大旅館 0.54 回 (▲0.01 回、▲1.8%)
- ・中旅館 0.55 回 (+0.03 回、+5.4%)
- ・小旅館 0.66 回 (+0.23 回、+34.8%)

(ホテル) 0.64 回で旅館より高い。

黒字・赤字でみると、大旅館では赤字の方が高く、中旅館と小旅館では黒字の方が高くなっている。

- ・大旅館 黒字 0.51 回 赤字 0.69 回
- ・中旅館 黒字 0.65 回 赤字 0.36 回
- ・小旅館 黒字 0.68 回 赤字 0.61 回

(3) 資金回収年数

$$\text{資金回収年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

資金回収年数は借入金が理論上何年で完済するかをみる指標である。減価償却費と経常利益を原資として借入金を返済するという計算である。

分子である借入金が少なく、分母である利益が多い方がよい。従って小さい数値ほどよい。

収益性が改善し小旅館では前年より 14 年も短縮した。

- ・大旅館 11.5 年 (▲7.0 年、▲37.8%)
- ・中旅館 16.3 年 (+1.5 年、+ 9.2%)
- ・小旅館 13.2 年 (▲14.1 年、▲48.8 %)

(ホテル) 13.3 年と小旅館と同水準となっている。

黒字・赤字別でみると差が顕著である。黒字旅館では 10 年前後で返済が可能となるが、赤字旅館では 50 年以上、中旅館にあっては 100 年を超える。

- ・大旅館 黒字 9.8 年 赤字 59.0 年
- ・中旅館 黒字 12.3 年 赤字 128.5 年
- ・小旅館 黒字 8.9 年 赤字 57.5 年

表 27 資本効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資本利益率 (%)	平成 20 年	△ 0.9	△ 1.2	1.6	△ 0.9	—
	21 年	△ 0.4	△ 1.1	△ 1.0	△ 0.7	—
	22 年	△ 0.5	△ 1.5	△ 1.3	△ 0.9	—
	23 年	△ 0.3	△ 1.1	△ 2.5	△ 0.7	—
	24 年	0.2	1.4	△ 0.3	0.7	△ 0.5
	25 年	2.1	1.1	1.9	1.6	2.3
総資本回転率 (回)	平成 20 年	0.49	0.57	0.65	0.52	—
	21 年	0.57	0.56	0.47	0.57	—
	22 年	0.53	0.60	0.39	0.54	—
	23 年	0.54	0.60	0.57	0.56	—
	24 年	0.55	0.52	0.43	0.52	0.33
	25 年	0.54	0.55	0.66	0.55	0.64
資金回収年数 (年)	平成 20 年	15.9	18.5	12.3	16.6	—
	21 年	19.6	28.6	25.2	22.6	—
	22 年	22.3	34.8	45.7	26.8	—
	23 年	22.3	30.5	42.8	25.3	—
	24 年	18.5	14.8	27.3	17.3	43.8
	25 年	11.5	16.3	13.2	13.3	13.3

(4) 借入金依存度 〈表 28〉

$$\text{借入金依存度} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div \text{総資本} \times 100$$

借入金依存度は総資本に占める借入金の割合を示す。大旅館で低く小旅館で高くなっている。ここ数年の状況からは逆転現象となっている。

- ・大旅館 61.7% (▲18.2p)
- ・中旅館 64.2% (▲7.0p)
- ・小旅館 76.2% (+10.8p)

(ホテル) 75.2%と小旅館と同水準となっている。

赤字の中旅館が低い値となっている。

- ・大旅館 黒字 59.2% 赤字 76.5%
- ・中旅館 黒字 72.5% 赤字 48.8%
- ・小旅館 黒字 67.6% 赤字 96.4%

(5) 自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$$

自己資本は資本金や過去の利益の蓄積である。自己資本は多いほどよい。大旅館が高い。

- ・大旅館 26.8% (+16.5p)
- ・中旅館 24.6% (+4.9p)
- ・小旅館 10.6% (▲12.2p)

(ホテル) 3.9%と旅館の平均を下回る。

表 28 借入金依存度、自己資本比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
借入金依存度	平成20年	71.9	91.2	70.6	77.8
	21年	78.9	84.9	76.5	81.0
	22年	78.3	87.5	67.0	80.9
	23年	86.5	80.1	67.4	83.2
	24年	79.9	71.2	65.4	75.1
	25年	61.7	64.2	76.2	63.6
(短期)	平成24年	15.8	7.9	9.7	12.1
	25年	11.1	5.7	6.1	8.5
(長期)	平成24年	64.1	63.4	55.7	63.0
	25年	50.6	58.5	70.1	55.1
自己資本比率	平成20年	15.8	△ 1.9	16.2	10.4
	21年	9.5	△ 0.2	11.8	5.9
	22年	12.6	△ 0.3	20.6	8.5
	23年	3.3	7.4	18.9	5.5
	24年	10.3	19.7	22.8	13.3
	25年	26.8	24.6	10.6	24.9

II. 全件調査

以下の項目は、これまでの損益計算を中心とする分析には有効でないとされた回答も含めた全件を対象としている。

1. 集客の方法 〈図 9、表 29〉

(1) 予約方法

お客様はどのような方法で旅館ホテルを予約されているのであろうか。リアルエージェントと言われる旅行業、インターネット窓口であるネット業者、自社サイトの比率で設問している。「直接その他」は100%から引き算で算出している。

(2) 旅行業経由

$$\text{旅行業経由} = \text{旅行業経由の宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

旅行業経由は各規模とも低下させている。小旅館で低くなっている。

- ・大旅館 53.6% (▲5.7p)
- ・中旅館 49.2% (▲3.2p)
- ・小旅館 23.5% (▲9.3p)

(ホテル) 20.6%と旅館より低い。

(3) ネット業者経由

$$\text{ネット業者経由} = \text{ネット経由の宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

ネット業者経由は小旅館が牽引する形で進んできたが、ここ3年は足踏み状態になっている。

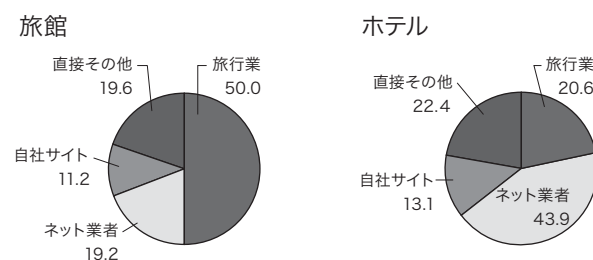
- ・大旅館 15.9% (▲1.5p)
- ・中旅館 20.9% (▲0.8p)
- ・小旅館 34.9% (+1.7p)

(ホテル) 43.9%と旅館平均より24.7pも高い。

黒字・赤字別でみると黒字が高い。

- ・大旅館 黒字 16.1% 赤字 15.1%
- ・中旅館 黒字 21.5% 赤字 18.5%
- ・小旅館 黒字 36.8% 赤字 30.4%

図9 宿泊人員構成 (単位：%)



(4) 自社サイト経由の宿泊人員

自社サイト経由の構成比＝自社サイトよりの
宿泊人員 ÷ 年間延べ宿泊人員 × 100

小旅館が先行する形で拡大してきた。

- ・大旅館 9.6% (+4.4p)
- ・中旅館 11.4% (+3.8p)
- ・小旅館 22.8% (+3.9p)

(ホテル) 13.1%と前年より 9.5p 高くなっている。

2. ホームページ 〈表 30、表 31〉

(1) ホームページの対応言語

ホームページの対応言語で日本語のみとしている回答は56.2%と前年より減少した。外国語対応の必要度が高まっている。

対応言語は英語が最も多く、英語以外では香港や台湾で用いられている繁体字(中国語)、中国大陆で用いられている簡体字(中国語)、韓国語の順となっている。

また今年度よりタイ語、仏語、独語の選択肢を加えた。

- ・英語 39.1% (+1.6p)
- ・繁体字 20.1% (+2.0p)
- ・簡体字 15.1% (+0.0p)
- ・韓国語 13.0% (▲2.8p)
- ・日本語のみ 56.2% (▲0.9p)

表 29 エージェントと自社HP (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
旅行業経由	平成20年	70.2	59.2	38.3	66.3
	21年	62.6	60.2	46.7	61.1
	22年	60.0	57.8	38.8	58.2
	23年	58.7	50.8	30.0	54.9
	24年	59.3	52.4	32.8	55.2
	25年	53.6	49.2	23.5	50.0
ネット業者経由	平成20年	8.8	14.7	25.4	11.4
	21年	12.8	15.3	27.0	14.2
	22年	14.1	14.7	23.1	14.7
	23年	17.1	19.3	37.8	18.4
	24年	17.4	21.7	33.2	19.9
	25年	15.9	20.9	34.9	19.2
自社サイトより	平成20年	4.3	8.3	11.5	5.9
	21年	5.3	6.9	11.4	6.2
	22年	5.1	5.6	11.8	5.5
	23年	5.6	6.5	17.8	6.2
	24年	5.2	7.6	18.9	6.8
	25年	9.6	11.4	22.8	11.2

※24年までは「インターネット経由」「うち自社サイト」と設問した。

(ホテル) 日本語のみが42.9%と旅館より外国語化が進んでいる。

(2) 予約機能

ホームページからの即時予約は86.6%が可能としている。大旅館ほど高い。

- ・大旅館 96.3% (▲3.7p)
- ・中旅館 87.9% (▲5.9p)
- ・小旅館 80.0% (+1.6p)

(ホテル) 82.1%と旅館よりやや低い。

予約機能を黒字・赤字の別でみると、小旅館では赤字ほど高くなっている。

- ・大旅館 黒字 97.5% 赤字 92.9%
- ・中旅館 黒字 89.3% 赤字 83.8%
- ・小旅館 黒字 76.1% 赤字 87.9%

表 30 自社ホームページ対応言語 (単位：%)

年 度	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅 館	H20 年	36.3	10.9	6.6	10.5	—	—	—	62.9
	21 年	42.0	13.7	13.7	13.3	—	—	—	53.5
	22 年	42.5	19.2	16.4	16.8	—	—	—	55.1
	23 年	44.3	23.2	18.2	20.2	—	—	—	53.2
	24 年	37.5	18.1	15.1	15.8	—	—	2.7	57.1
	25 年	39.1	20.1	15.1	13.0	0.7	0.7	0.0	56.2
ホテル	H24 年	30.4	8.7	4.3	4.3	—	—	0.0	69.6
	25 年	50.0	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9

(注) タイ語、仏語、独語は25年調査より設問している。

表 31 自社ホームページについて (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
自社専用HP	平成20年	76.9	68.1	63.9	69.9
	21年	74.6	62.6	73.9	68.4
	22年	88.5	87.6	91.7	88.7
	23年	91.7	91.2	100.0	92.8
	24年	100.0	91.5	93.4	93.8
	25年	100.0	96.4	89.0	94.3
HPから即時予約する事が可能	平成20年	97.5	88.3	75.7	88.6
	21年	100.0	92.9	86.7	93.8
	22年	96.6	91.1	83.0	90.8
	23年	96.6	93.9	82.9	92.8
	24年	100.0	93.8	78.4	89.6
	25年	96.3	87.9	80.0	86.6

即時予約可能なHPがある場合の対応言語は、日本語のみが旅館40.9%で、英語29.7%となっている。

次いで、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語の順となっている。
(ホテル) 日本語のみは39.1%で、英語は52.2%となっている。旅館と比較するとホテルでは外国語化が進んでいる。英語のみならず、中国語(繁体字)、韓国語の対応も進んでいる。一方で、タイ語などは0%であった。

3. 外国人宿泊客 〈表 32、表 33、表 34、表 35〉

(1) 外国人宿泊人員比率

表32 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位：%)

25年	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅館	29.7	10.8	8.1	7.7	0.8	0.8	0.4	0.8	40.9
ホテル	52.2	21.7	8.7	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	39.1

表33 外国人宿泊人員比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
外国人客宿泊人員比率	平成20年	3.5	2.3	6.4	3.1
	21年	3.1	1.3	4.2	2.4
	22年	2.9	2.5	5.6	2.9
	23年	3.1	1.4	7.6	2.5
	24年	4.0	1.8	7.9	3.4
	25年	5.2	3.6	4.2	4.5

表34 地域別外国人宿泊人員比率 (単位：%)

地 域 別	24年	25年	前年比
北海道	15.3	12.9	84.3
東北	1.0	1.3	130.0
関東	2.0	5.8	290.0
北陸信越	1.8	3.7	205.6
中部	2.2	2.6	118.2
関西	4.4	3.5	79.5
中国	1.0	2.1	210.0
四国	1.3	3.8	292.3
九州	2.4	3.9	162.5

表35 国籍別外国人宿泊人員

(単位：%)

年 度	韓国	台湾	中国	香港	タイ	米国	英国	その他不明
旅館	平成20年	18.1	43.8	3.1	12.3	—	3.5	0.9
	21年	10.6	40.7	5.8	8.6	—	2.1	0.4
	22年	12.4	34.5	10.6	9.4	—	3.4	1.1
	23年	11.8	43.5	7.8	13.5	—	4.2	0.7
	24年	9.3	45.3	8.7	11.4	—	5.5	0.9
	25年	8.6	44.6	9.3	10.8	3.4	2.3	0.5
ホテル	平成24年	6.0	11.7	3.9	2.5	—	4.3	2.5
	25年	4.0	13.9	11.6	6.6	3.6	5.7	1.6

$$\text{外国人宿泊人員比率} = \frac{\text{外国人宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

外国人宿泊人員比率は4.5%に上昇した。

- ・大旅館 5.2% (+1.0p)
- ・中旅館 3.6% (+1.7p)
- ・小旅館 4.2% (▲4.6p)

(ホテル) 9.0%と旅館より高い。

外国人客の増加により徐々にではあるが外国人宿泊人員比率は増加している。一方で、小旅館が大幅な減少となっている。

地域別では北海道が高いが前年の84.3%と比率を減少させている。増加は四国と関東が顕著で概ね3倍増の勢いである。

(2) 国籍別外国人宿泊人員

外国人の国籍では台湾が最も多く44.6%を占める。この7年間でみても台湾からの来訪が一番多い。

次いで多いのが香港だが前年を下回る。中国は9.3%と持ち直しの感がある。韓国は低下の一途となっている。

(ホテル) ではその他不明が多い。国籍別では、台湾、中国、香港の順となっている。

(3) 外国人受け入れの意向について〈表 36、表 37〉

「料金に関わりなく受け入れたい」という積極派が増加し 40.5%となっている。一方、「日本人観光客を優先する」は 27.8%とほぼ横ばいとなっている。

外国人の受け入れ意向を規模別にみると、「料金に関わりなく…」は中旅館が高い。「日本人優先」は小旅館で高い。

(ホテル)「料金に関わりなく…」は 60.7%と高い。「日本人優先」は 17.9%と旅館よりも低い。

4. インターネット対応 〈表 38〉

(1) サイトコントローラーの導入状況

多くの旅館ホテルは複数のネット業者と契約している。ネット上で予約を受けるためにはネット業者に客室を提供しなければならない。提供した客室がすべて売れるわけではないので、在庫管理は旅館ホテル側がおこなう。

例えば、10部屋をネット業者4社に提供するとしよう。その10部屋はネット業者4社のサイトにそれぞれ提供する。従ってインターネット上では40部屋が販売されていることになる。

10室のうち2室がA社で予約が入ったら、A社のみならず残り3社のサイトも残数8部屋にしなければならない。従来は手作業で変更をおこなって

いたが、近年、この作業を自動化するサイトコントローラーソフトが販売されるようになった。

サイトコントローラーの導入状況は旅館は73.6%で、大旅館が90%を越え小旅館が57.0%となっている。また、ホテルは60.7%と旅館の平均よりも低い。

(2) 無料公衆無線 LAN(フリー Wi-Fi)〈表 38、表 39〉

ノート型パソコンやスマートホン(スマホ)の普及により無料公衆無線 LAN(フリー Wi-Fi)の電波が欲しいというニーズが高まっている。さらに、訪日外国人は日本国内で携帯電話やスマートホンを使用すると高額な国際通信料が請求される。そのため、無料の電波は訪日外国人にとっても貴重な存在である。

旅館ホテルがフリー Wi-Fi を設置する事は顧客サービスの一環となっている。

そこで今回フリー Wi-Fi の設置状況を設問した。旅館では平均で78.9%、ホテルでは82.1%がフリー Wi-Fi を設置している。規模別では大旅館の設置が94.4%となっているが、小旅館は65.0%にとどまる。

次に、設置している旅館ホテルを対象に設置場所を設問したところ、全館が旅館 25.5%、ホテル 52.2% とホテルが高くなっている。

表 36 外国人の受け入れ意向 (単位: %)

年 度		料金に関わりなく受け入れたい	高単価の外客のみ受け入れたい	日本人観光客を優先する	外客は受け入れたくない
旅館	平成 20 年	39.5	32.6	24.4	0.2
	21 年	38.5	40.7	21.7	0.5
	22 年	39.4	33.3	28.6	0.5
	23 年	39.9	33.0	27.1	1.5
	24 年	32.4	29.3	34.0	0.8
	25 年	40.5	25.4	27.8	2.7
ホテル	平成 24 年	60.9	8.7	21.7	4.3
	25 年	60.7	3.6	17.9	3.6

表 37 規模別外国人の受け入れ意向 (単位: %)

平成 25 年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
料金に関わりなく受け入れたい	35.2	43.6	39.0	40.5	60.7
高単価の外客のみ受け入れたい	37.0	25.0	20.0	25.4	3.6
日本人観光客を優先する	22.2	23.6	37.0	27.8	17.9
外客は受け入れたくない	0.0	2.1	4.0	2.7	3.6

表 38 インターネット対応状況 (単位: %)

	サイトコントローラー(手間いらず、ねっぼん、TL リンカーン等)を導入している	無料公衆無線 LAN(フリー Wi-Fi)を設置している
旅館	73.6	78.9
大旅館	90.7	94.4
中旅館	79.3	84.3
小旅館	57.0	65.0
北海道	80.8	88.5
東北	65.0	67.5
関東	77.8	75.0
北陸信越	60.5	73.7
中部	82.5	85.0
関西	86.0	90.7
中国	70.8	70.8
四国	73.9	82.6
九州	62.1	75.9
黒字旅館	73.0	80.5
赤字旅館	75.0	75.0
ホテル	60.7	82.1

5. クレジットカード〈表 40〉

クレジットカード決済が可能な旅館は93.3%に及ぶ。
小旅館は 85.0%となっている。

決済端末の普及度も小旅館で 90.6%にとどまる。

一方で、カード決済の割合が高いのは小旅館となっている。地域別でみると、四国ではカード決済の割合が高い。

(ホテル) カード決済が可能は 92.9%で、端末導入も 100%となっている。決済の割合は 27.2%と旅館よりも高い。

むすび

旅館ホテル経営においては、会員同士であってもお互いの経営の内情を知り合うことは容易ではありません。この報告書は集計結果という平均像です。平均像をとおして業界全体が今どのようなになっているのかを知り、自社の現状を再確認していただき、改善のための道筋を見いだしていただきたいと願っています。

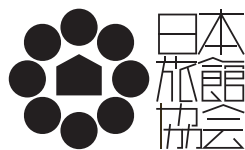
あわせて協力旅館ホテルの各位に深く感謝し、有効な資料として活用いただけることを祈念致します。

表39 無料公衆無線 LAN(フリー Wi-fi)の設置場所 (単位：%)

	全館	ロビー	客室	会議室	宴会場	その他
旅館	25.5	72.3	13.6	10.2	6.8	3.0
大旅館	24.0	74.0	8.0	14.0	8.0	0.0
中旅館	20.3	78.0	14.4	14.4	7.6	5.1
小旅館	35.4	61.5	16.9	0.0	4.6	1.5
北海道	39.1	60.9	17.4	4.3	0.0	0.0
東北	18.5	77.8	7.4	18.5	18.5	0.0
関東	14.8	85.2	11.1	7.4	0.0	0.0
北陸信越	25.0	71.4	3.6	7.1	0.0	7.1
中部	11.8	82.4	17.6	11.8	8.8	2.9
関西	26.3	73.7	13.2	7.9	0.0	5.3
中国	41.2	58.8	17.6	0.0	0.0	0.0
四国	42.1	52.6	26.3	21.1	15.8	0.0
九州	27.3	72.7	13.6	13.6	22.7	9.1
黒字旅館	30.8	67.4	16.9	10.5	7.6	2.9
赤字旅館	11.1	85.7	4.8	9.5	4.8	3.2
ホテル	52.2	47.8	26.1	4.3	8.7	4.3

表40 クレジットカード (単位：%)

	クレジットカードで 決済が可能	決済端末を導入 している	カード決済の割合
旅館	93.3	95.0	19.3
大旅館	98.1	98.1	14.6
中旅館	98.6	96.4	17.3
小旅館	85.0	90.6	24.7
北海道	96.2	100.0	23.0
東北	90.0	94.4	15.8
関東	91.7	93.9	16.2
北陸信越	89.5	91.2	20.2
中部	92.5	91.9	14.0
関西	100.0	93.0	20.1
中国	87.5	100.0	19.7
四国	100.0	95.7	34.1
九州	93.1	100.0	16.1
黒字旅館	93.5	94.5	20.7
赤字旅館	92.9	96.2	15.8
ホテル	92.9	100.0	27.2



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

平成27年4月
営業状況等統計調査

発行 一般社団法人 日本旅館協会
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。